お役立ち基本ソフトを一挙に紹介！

定番Linuxフリーソフト ウラオモテ

Linuxのオススメ定番ソフトをセレクトしてご紹介！気になるソフトはどんどん導入してみよう

Ubuntuでのインストール

「アプリケーション」メニューから「追加と削除」を選択し、「表示」プルダウンから、「全ての利用可能なアプリケーション」を選び、検索欄にソフト名を入力。目的のソフトをダブルクリックし「変更の適用」ボタンをクリックしよう

Fedoraでのインストール

「システム」メニューから「管理」→「ソフトウェアの追加と削除」を選択してPackage Kitを起動。キーワード検索もしくはジャンル分けされたソフト一覧から、目的のソフトを探してインストールしよう

統合インターネットソフトウエアスイーツ SeaMonkey

Web閲覧のためのブラウザ、メールやニュースグループの送受信、ホームページの編集、IRCチャットクライアントなど、たくさんの機能がワンパッケージとなったインターネットスイーツ「Mozilla Suite」の後継版ソフト。

ネット関連ソフトがワンパッケージに

ポップアップブロック機能や画像マネージャなども搭載したタブブラウザの「Navigator」、迷惑メールフィルタやラベル機能でメールを管理できる「Mail & Newsgroups」、HTMLエディタの「Composer」、IRCクライアントの「ChatZilla」などが、すべて無料で利用できるのだ。

ネット関連のさまざまなソフトがまとめて利用可能。もちろん個々のソフトだけを選んでインストールすることも可能になっている

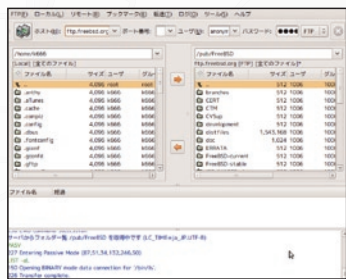
SeaMonkeyを日本語化する

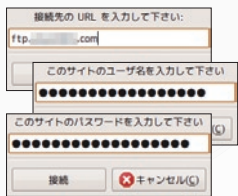
SeaMonkeyを日本語化するには、SeaMonkeyで「もじら組もじら団（http://seamonkey.mozilla.gr.jp/）」にアクセスし、ページ右のメニューから「日本語言語パック」をクリック。日本語言語パックの追加が完了したら、環境設定を開き、言語を日本語に変更すればOKだ。

「Edit」から「Preferences」を開き、「Appearance」の「Languages」を変更しよう

インストール方法：パッケージ
ライセンス：MPL/LGPL/GPL
公式サイト：
http://www.seamonkey-project.org/

FTPクライアント gFTP

Linux対応のFTPクライアントソフト。ファイルのアップロードやダウンロードはコマンドでも実行できるが、コマンドラインでの操作に慣れていないとなかなか難しい。このソフトなら同様の操作が、マウスで手軽に行えるのだ。

必要事項を入力して接続

gFTPを使ってファイルを転送するには、まず目的のFTPサーバに接続しなければならない。接続に必要な情報はサーバアドレス、ユーザー名、パスワードの3点。接続したら、後はウインドウ右エリアを使って、目的のファイルをドラッグ＆ドロップでアップロードやダウンロードが可能。

ウインドウ左上のパソコンが2台並んだ「接続」ボタンを押すと、URLの入力ウインドウが表示される。ウインドウに従い、URL、ユーザー名、パスワードを入力すれば、サーバに接続される

頻繁に使うサーバを登録

よく利用するFTPサーバが決まっているのなら、接続のたびにURLやユーザー名、パスワードを入力するのは面倒なもの。そんなときにはブックマーク機能を利用すると便利だ。ブックマークに登録しておけば、「ブックマーク」メニューから即座に接続することができる。

FTPサーバに接続している状態で「ブックマーク」メニューから「ブックマークへ追加」を選択。分かりやすいブックマーク名を指定してから追加しておこう

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://gftp.seul.org/

ファイヤーウォール
Firestarter

一番の特徴は「ポリシー」。ここでパソコンが実施する送受信の設定を細かく指定する

ホストごとのポート番号やサービスの種類を指定してパソコンの侵入や有害な通信を遮断できるファイヤーウォールソフトだ。初心者でも理解しやすいユーザーインターフェースのため、Linuxでも高い人気を誇る。様々な設定が用意されているのも人気の秘密だ。

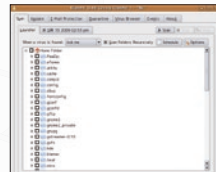
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.fs-security.com/

テキストエディタ
TEA

非常に軽量で扱いやすいうえ、PHPやPerlなどの形式にも対応している。複数のテキストをタブで開くことができる

文字列の加工や文字数の確認、ハイライト表示など多機能なテキストエディタ。特筆すべきはHTMLに対する機能の豊富さで、ブラウザでの確認やタグの入力支援がデフォルトで搭載されている。HTMLのタグを直接手で打ち込んでWebページを編集する場合などに役立つソフトだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://tea-editor.sourceforge.net/

ウィルススキャンソフト
KlamAV

KlamAVの操作性は、製品版のウィルス検索ソフトとほとんど変わらない

CUI操作でウィルスチェックを行う「ClamAV」のGUI版。ウィルスの駆除やパターンファイルの更新などが全てマウスで行える。スキャンを行う時間を設定しておき、指定時間になるとスキャンが始まるスケジュール機能も搭載。その完成度は、製品版のウィルス検索ソフトをも凌駕するほど!?

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/LGPL
公式サイト：http://klamav.sourceforge.net/

パッケージ変換ツール
alien

RPM形式のファイルをDEB形式に変換。操作は端末上で行う

Red Hat Linux系（Fedoraなど）のパッケージ形式であるRPM形式を、Debian系（Ubuntuなど）のDEBパッケージに変換するツール。変換作業は全てコマンドライン（端末）で行うが、引数にRPMファイル名を与えるだけで良いので、CUIに慣れていない人でも簡単に変換できる。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：ー
公式サイト：http://kitenet.net/~joey/code/alien/

CD/DVDライティングソフト
Brasero

日本語に対応しているBrasero。音楽CDやDVDの作成もマウスで簡単に行える

Gnome標準のCD/DVDライティングソフト。データの丸ごとコピー、音楽CDの作成やDVDの作成はもちろん、ISOイメージからメディアを作成する事もできる。メディアの作成のみならず、バックアップツールとしても使える所が魅力的。操作のほとんどがマウスで行える事も特徴的だ。

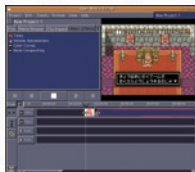
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.gnome.org/projects/brasero

動画再生ソフト
MPlayer

MPlayerはコマンドから操作するものと、GUIで操作を行うものの2種類が存在する

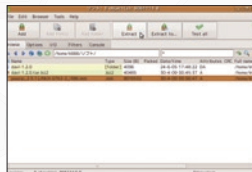
動画再生プレイヤーである「MPlayer」は、数多くの動画再生形式に対応している。動画を保存する事も可能で、「MEncoder」と呼ばれる独自のエンコーダにより様々なフォーマットへのエンコードが行える。Linux版のほか、WindowsやMac版も公開されている。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.mplayerhq.hu/

ビデオ編集ソフト
Open Movie Editor

設計がシンプルな分できることは限られているが、非常に扱いやすい編集ツール

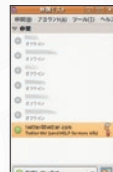
「Open Movie Editor」は初心者向けのビデオ編集ソフトだ。動画をトラックに読み込み、時間軸に沿って動画を切ったり貼ったりといった加工が行える。動画の作成段階でエフェクトの調整もできるので、オリジナルの動画を作るのに十分な機能を備えている。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.openmovieeditor.org/

多形式に対応した高機能アーカイバ
PeaZip

複数のファイルをまとめて解凍したり、圧縮ファイルの管理なども可能

「PeaZip」は多くの形式に対応した圧縮・解凍ソフト。7Zip、BZ2、GZ、PAQ、PEA、QUAD、TAR、UPX、ZIPへの圧縮が可能なうえ、ARJ、TBZ2、CAB、ISO、LZHなど一般的な圧縮形式のほとんどを解凍することが可能。容量を指定して分割圧縮することも可能だ。

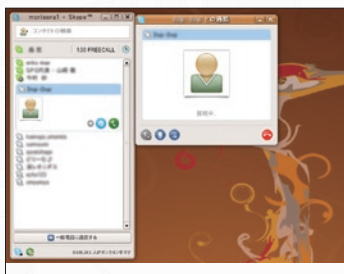
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPLv3
公式サイト：http://sourceforge.net/projects/peazip

メッセンジャー
Pidgin

MSNメッセンジャーとの互換性があるので、Windowsユーザとのチャットも楽しめる

「Pidgin」はLinuxで扱えるメッセンジャーのひとつで、元々「Gaim」という名前だった。MSNやYahooメッセンジャーなどにも対応しているのでOSに依存しないIMとして使う事ができる。特筆すべき点は、プラグインを導入することで「Twitter」も利用できるというところだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.pidgin.im/index.php

インターネット電話 Skype

チャットや電話、ビデオ通話が無料で楽しめるメッセンジャーソフト。有料サービスを利用すると固定電話、携帯電話への通話やボイスメールの送受信など、多様なコミュニケーションが可能。

インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：Skype Technologies
公式サイト：http://www.skype.com/intl/ja/welcomeback/

≫通話やビデオ電話が無料！

通常のメッセンジャー機能とは他に、Skype利用者の間で無料通話ができる。電子会議室も可能で、最大で10人まで参加が可能。(Skype3.0以降) さらにWebカメラがあれば、ビデオ電話やスナップショットの交換もでき、遠方のコミュニケーションツールとして最適。

≫分かりやすいコンタクトリスト

ユーザ間で登録を行うと、コンタクトリストにユーザー名が表示される。ユーザ名を選択した後、電話もしくはチャットのボタンをクリックするだけで、メッセージの交換や通話ができる簡単な設計となっている。複雑さは感じられず、気軽に試せそうだ。

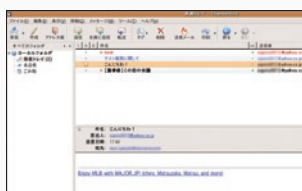
見やすいコンタクトリストやウインドウの表示スタイルにより、使い勝手も良い

メールソフト Thunderbird

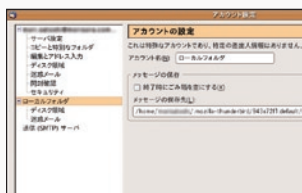
Firefoxとともに開発されている、オープンソースのメールソフト。送受信の履歴検索やスパムのフィルタリング、暗号化などのセキュリティ対策も施された高機能のメーラーだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：MPL・GPL・LGPL
公式サイト：http://mozilla.jp/thunderbird/

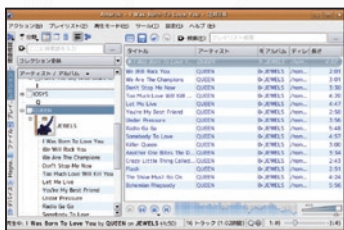
≫便利な管理機能

「重要」や「To Do」等のメッセージのタグ付け、フォルダ毎の分類はもちろん、件名や本文、差出人などのキーワードを指定して高速で検索が行えるなど、メールの管理機能が豊富だ。ほかにも、セキュリティ機能も備わっている。

フォルダを作成したり、件名をクリックすれば画面下半分で閲覧することもできる

≫カスタマイズも簡単

メールのテンプレートが作成できるので同じメール内容を一斉に送信する事が楽チンだ。オープンソースならではの多彩なアドオンも用意されており、機能の拡張やユーザ一毎のカスタマイズが簡単に行える。

アカウントの設定などもシンプルな作りで設定がしやすい

音楽プレイヤー amarok

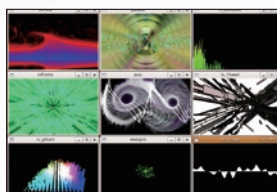
Linuxで使える音楽プレイヤーのなかで、一番メジャーなのは「amarok」だ。音楽ファイルを再生するだけでなく、CDジャケットの画像を簡単にダウンロードしたり、イコライザ機能で好みの音質に変更することも可能なのだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://amarok.kde.org/

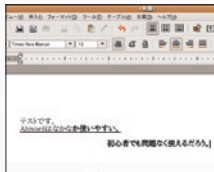
≫IPODにも対応

iPodへのデータの書き込みにも対応しているamarok。機能面ではほぼ満点といえる充実ぶりだ。おまけに、amarokは機能の割に動作が軽快だ。音楽ファイルの管理にデータベースを使っているので、キビキビと動作してくれるのはとても嬉しいポイントといえるだろう。

自動的にネットから検索して、ジャケット写真をゲットしてくれる。「保存」をクリックするとライブラリに登録される

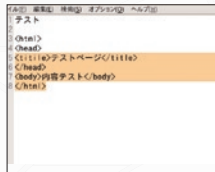
≫ビジュアライザも充実

本格的に音楽を楽しむなら、ビジュアライザで彩りを加えるのもアリ。再生中の音楽にあわせて表情を変える映像を楽しむことができるので、お気に入りの音楽を聴く楽しみを倍増することができる。

amarokでは様々なビジュアライザが用意されているので、色々試して好みにあったものを探すのがオススメだ

ワープロソフト Abiword

MS-Wordに似た使い勝手で、初心者でも違和感なく使える

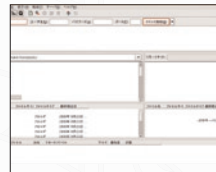
Microsoft Wordと同じような触り心地と機能を持つワープロソフト。画像や表の挿入、文字の装飾はもちろん、キーワードの置き換えや印刷、インデントを任意に揃える事も可能だ。年々注目されつつあるOpenDocumentにも対応する。

インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://abisource.com/

テキストエディタ Leafpad

日本語文字コードへの対応が豊富である上、タブ形式でドキュメントが作れる

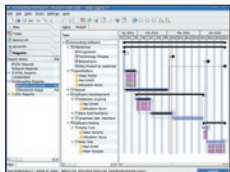
Linuxを使っていると、日本語の文字化け（シフトJIS等）に苦労する事もあるだろう。その場合「nkf」や「lv」といったプログラムをインストールする必要があるが、Leafpadならそんな面倒な作業も不要だ。テキストファイルの切り替えも楽チンだぞ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://tarot.freeshell.org/leafpad/

FTPクライアント File Zilla

ウィンドウも見やすい分割表示

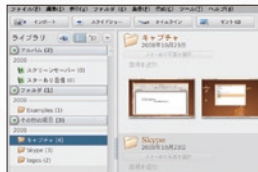
File ZillaはSSHによる暗号化通信を利用してリモートコンピュータにアクセスするため、セキュリティ面で優れている。データを暗号化しながら高速通信が行える点も魅力で、数少ない日本語対応のセキュアFTPクライアントソフトだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://filezilla-project.org/

プロジェクト管理ツール TaskJuggler

各プロジェクト毎にスケジュールが視覚的に確認できるので把握がしやすい

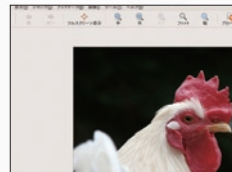
テキストベースで作成するプロジェクト管理ツール。タスクのスケジュールはガントチャートやHTMLで出力される。TaskJuggler専用のスクリプトを用いる必要があるが、テキストエディタでスケジュール表を作る事ができるので、ほとんどマウスの操作を必要としない。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.taskjuggler.org/

画像編集・ビューワ Picasa

日本語に対応しているBrasero。音楽CDやDVDの作成もマウスで簡単に行える

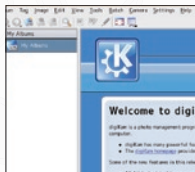
picasaをインストールするとPC内に保存されている画像が自動的にライブラリ化されるので、すでに写真を取り込んでいる方も整理が簡単だ。Web上でアルバムを作る事ができるので、インターネット環境さえ揃っていればリモートで共有ができる。

インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：proprietary software
公式サイト：http://picasa.google.co.jp/

画像ビューワ gThumb

画像のカテゴリ分けがとてもしやすい

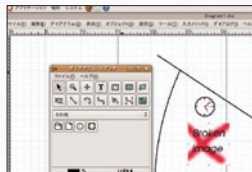
フォルダ内の画像をサムネイル表示してくれるため、一目で画像の中身が確認できる。画像のコピーや色の調整等の簡単な編集ができる上、お気にいりの画像にコメントをつけたりブックマークしたりと、痒い所に手が届く機能が備わっているのが特徴だ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://gthumb.sourceforge.net/

画像管理ソフト digiKam

KDEアプリケーションの画像ビューワとして有名なdigiKam

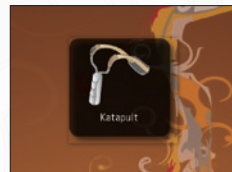
画像のタグ付けやコメントはもちろん、アルバムとして一括管理が行える。インストール手順はとてもシンプルで、プラグインによる機能の拡張が手軽に行えるため、素人から玄人まで幅広い層で愛される画像ビューワであると言えよう。

インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.digikam.org/

図形・イラスト作成 Dia

MS-Office付属の作画ツール「Visio」の代わりとして使っても何ら遜色はない

「Dia」の特徴は、直感的な操作で作図ができ、初心者でもスムーズに扱える点。簡単な地図や絵が気軽に作れる上、ネットワーク図やフローチャートの作成もOKなので、一般ユーザーだけでなく、企業が業務用ソフトとして採用するケースも多い。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://live.gnome.org/Dia/

ランチャー Katapult

ショートカットキーが割り当てられるので、ほとんどキーボードだけでアプリの操作が可能だ

アプリケーションをキー操作だけで起動できるランチャー。「Alt」+「Space」キーを押すとアプリ選択画面が表示されるので、アプリ名の頭文字を入力すると、候補が表示され、そこから起動アプリを選択できる。メニューからのアプリ起動よりも軽快だぞ。

インストール方法：ソースコンパイル
ライセンス：GPL
公式サイト：http://katapult.kde.org/

デスクトップガジェット Screenlets

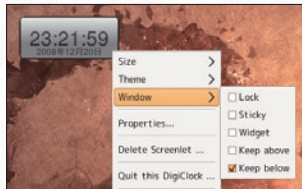
Vistaのサイドバーのようなガジェットを Ubuntuでも実現。柔軟な設定ができるので、Vistaのサイドバーガジェットよりも使い勝手がいいのもうれしい。

多彩なウィジェット

Screenletsで起動できるツールは「ヴィジェット」という名前だ。Vistaのサイドバーガジェットとほとんどおなじもの。種類も豊富で、見た目も非常にクール。専用サイトからネットを通してウィジェットを追加することもできる。

ウィジェット管理用のアプリ「Screenlets Manage」で表示するウィジェットを管理する

カスタマイズも簡単

ウィジェットの管理は専用のアプリケーションで行えるほか、サイズ変更や表示する場所の指定など、細かいカスタマイズが簡単に行えるのも特徴だ。これを使えばデスクトップが華やかになること間違いナシだ！

各ウィジェットの右クリックメニューから各種設定が可能

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.screenlets.org/

仮想化マシンソフト VMware Player

フリーで使える仮想化マシンソフト。有料の製品版と違い、ハードウェア設定等の複雑な設定が必要ない。簡単にインストールできるので初心者向けの仮想化ソフトといえる。

LinuxとWindowsに対応

「VMware Player」は、LinuxとWindowsに対応している。ホストOSをLinux、ゲストOSをWindowsにする事はもちろん、その逆も実現が可能だ。普段はWindowsを使い、勉強用としてLinux仮想マシンを用意しておくと良いかも。

Windows上にUbuntu仮想マシンを導入した例。1台のPCでふたつのOSをいっぺんに使えるのはじつに便利

Ubuntuをゲストにする場合は……

Ubuntuをゲスト OSにする場合は、VMware Player用のOSイメージファイルを使うのが便利。イメージファイルはUbuntu Japanese TeamのWebサイト（http://www.ubuntulinux.jp/download/）から入手できる。

仮想マシンの構築はGUI操作で簡単。初心者でも迷う事なく設定できるだろう

インストール方法：パッケージ
ライセンス：プロプライエタリ
公式サイト：http://www.vmware.com/jp/

タブブラウザ flock

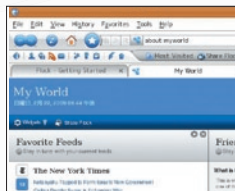
ソーシャルネットワークの機能やYoutube、Flickr、Picasa等の動画・画像共有サイトのコンテンツを搭載した新世代ブラウザ。Firefoxがベースとなっている。

多機能なソーシャルブラウザ

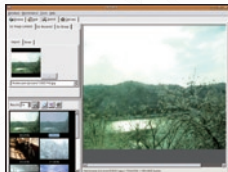
「flock」の大きな特徴は、単にWebをブラウジングするだけでは無く、diggなどのSNSやYoutube、Flickrなどの動画・画像共有サイト、Gmail、Yahoo MailなどのWebメール、ブログ投稿機能などを便利に使うための、多数の機能やコンテンツを備えている点だ。

画像共有サイト「Flickr」をflockで閲覧した場合の例。画像の閲覧やコメントの追加も簡単

マルチOSに対応

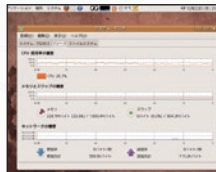
flockのカーネル部分はFirefoxがベースとなっているため、Windows、Mac OS、Linuxに対応している。OSに依存する事なく使える高機能Webブラウザなので、今後更にflockの利用者が増加していくだろう。

カスタマイズを行うことで、自分だけのオリジナルflockを作る事もできる

インストール方法：ソースからコンパイル
ライセンス：GPL、MPL/GPL/LGPL
公式サイト：http://www.flock.com/

画像管理ツール imgSeek

「imgSeek」はシンプルなデザインで使いやすい画像ビューア

パソコンに保存した写真も、数が増えるといつの間にか、重複したファイルも一緒に増えてくる。それを、いちいち手動で探し出すのは面倒すぎる。そんなときは「imgSeek」の類似画像検索機能を使って似た画像を検索すれば便利。類似の画像ファイルを探し出してくれるぞ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.imgseek.net/

デスクトップアプレット GNOME パネル

こちらは、CPUやメモリの利用率を監視できる「システム・モニタ」。PCの動作が遅いときに便利だ

デスクトップ上でメニューが配置されたバーを、Ubuntuでは「パネル」と呼ぶ。パネルには小粒だが便利なツールを配置できるのだ。好みのツールを配置して、快適なデスクトップを構築しよう。Ubuntuに標準搭載されている機能なので、ぜひ活用してみよう。

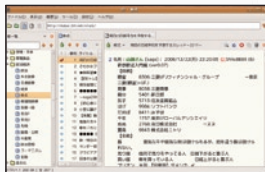
インストール方法：Ubuntuに標準搭載
ライセンス：LGPL/GPL
公式サイト：http://www.gnome.org/

ドックランチャー Avant Window Nav

Dock内のアイコンはメニューから選択することができる。アプリ自体を登録できるほか、Avant内蔵のツールも登録が可能だ

人気上昇中のMacのデスクトップ上で特徴的なのはなんといってもDockだろう。UbuntuでDockを使いたいなら「Avant Window Navigator」を使おう。MacにそっくりなDockを配置できるぞ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://wiki.awn-project.org/

2ちゃんねるビューワ JD

Windowsの専用ブラウザのように、板の一覧、スレッド一覧、スレッドの内容を3分割して表示できる

ブラウザで2ちゃんねるを見るのは不便な点が多いので、専用ブラウザを使うのがオススメだ。Ubuntuでは「JD」という専用ブラウザを利用できるので、2ちゃんねるをチェックする際は利用してほしい。また、Linuxでは表示が崩れがちなアスキーアートもきれいに表示できるのが嬉しい。

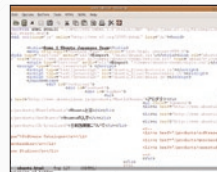
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://jd4linux.sourceforge.jp/

CDリッパー SoundJuicer

CDの曲名やタイトルも自動で取得してくれる

Ubuntu上で音楽CDをMP3に変換したいなら、「SoundJuicer」を使おう。コーデックのインストールが必要だが、曲名を自動でネットから取得してくれるので非常に便利なツールだ。また、音楽CDを挿入すると自動的にCDのタイトルや曲名をインターネットから自動的に取得してくれる。

インストール方法：Ubuntuに標準搭載
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：burtonini.com/blog/computers/sound-juicer

テキストエディタ Emacs

HTMLファイルを開くと、タグを特別な色で表示し、そのうえ自動的に字下げを行ってくれるのでかなり見やすくて、わかりやすい

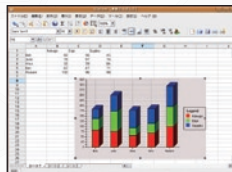
古くからのLinuxユーザーに絶大な人気を誇るテキストエディタが「Emacs」だ。単なるテキスト編集ツールではなく、Emacs上で専用プログラムを動かすことができるのが人気の秘密だといえる。メインウインドウは普通のテキストエディタに見えるが、Emacsは超多機能なツールなのだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.gnu.org/software/emacs/emacs.html

動画プレイヤー Totem

日本語インタフェースを装備しているので、とまどうことなく利用できるのもポイントだ

動画の再生に必要なコーデックは基本的に自動でインストールでき、あらかじめ設定さえ行っておけばDVDを鑑賞することもできる。さらにYoutubeにアップされた動画を直接見ることもできる。意外と侮れない性能をもつUbuntu標準の動画プレイヤーだ。

インストール方法：Ubuntuに標準搭載
ライセンス：GPL
公式サイト：http://projects.gnome.org/totem/

オフィススイート Koffice

表計算では当然グラフを作成することもできる。マイクロソフトのOfficeと同じくらいグラフの種類は豊富だ

オフィススイートといえば「OpenOffice」が有名だが動作が重いのが難点だ。「Koffice」の魅力はサクサクとした軽快な動作。MS Officeとの互換性はイマイチだが、統合環境としてはかなり優秀だ。必要十分な機能を備えたワープロが利用できる。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL/LGPL/BSDほか
公式サイト：http://koffice.org/

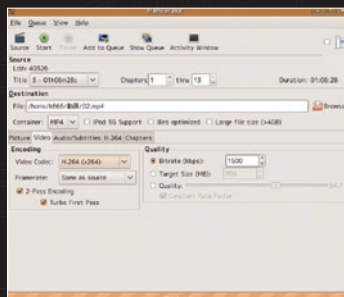
音楽プレイヤー Audacious

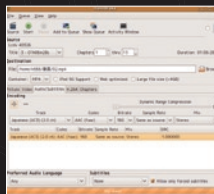
基本機能特化のプレイヤーとはいえ、スキンを切り替えて好みのデザインに変更することができるぞ

「Audacious」は音楽ファイルの再生という基本機能に特化した音楽プレイヤーだ。かなり古いPCを使っており、「amarok」などの多機能プレイヤーの動作が厳しい場合には試してみる価値があるぞ。メインウインドウを右クリック→「場所を演奏」で再生する音楽ファイルを選択できる。

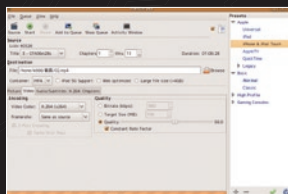
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://audacious-media-player.org/

DVDの映像をリッピングして変換 HandBrake

「HandBrake」は、DVDをリッピングして変換することができるDVDコピーソフト。iPodやPSPで見られる形式に変換することも可能。MPEG4/H.264/DivX/XviDを利用したMPEG4/AVI/OGM動画が作成できる。

»映像と音声を設定するだけ

GUIで操作できるため、初心者でも直感的に操作が可能。DVDを挿入したら「File」メニューからドライブを選択。映像が読み込まれるので、Source欄で目的のタイトルとチャプターを指定。続いて保存先を指定し、ウインドウ下部のタブで、映像や音声の細かい設定を行い、変換を開始する。

「Video」タブで映像の圧縮形式やビットレートを設定、同様に「Audio/Subtitles」タブで音声や字幕の設定を行う。すべての設定が完了したら、「Start」ボタンで変換を開始する

»プリセットで自動設定

DVDの映像を、iPodやPSP向けに変換したいといった目的がハッキリしている場合は、プリセットを利用するのがオススメ。映像や音声の設定をいちいち行わなくても、あらかじめPSP用設定、iPod用設定といった感じで、設定が用意されているので、選ぶだけで変換を開始できる。

画面右上の「Presets List」ボタンを押せば、変換設定リストが表示される。iPod向けやPSP向けの設定はここにあらかじめ用意されている

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://handbrake.fr/

共有動画を一括検索＆ダウンロードできる Miro

「Miro」は、インターネットテレビやポッドキャスト、動画共有サイトから、動画を検索してダウンロードし、管理・鑑賞できるソフト。キーワードと目的の動画共有サイトを指定しておき、自動的に監視してダウンロードが可能。

»気にいった動画を落とす

キーワードを指定してビデオ検索を行えば、動画共有サイトを一括検索して、一致した動画をリストアップしてくれる。気に入った動画はその場でダウンロードして、ライブラリに追加することが可能。「検索チャンネル」機能を使ってキーワード登録しておけば、自動収集することもできる。

検索してダウンロードした動画や、自動収集された動画はまとめてライブラリに登録される。ローカルの動画も追加できる。ここで管理や鑑賞が可能

»多くのチャンネルも用意

メニューの1番上にある「Miroガイド」には、あらかじめさまざまなインターネットテレビチャンネルが用意されている。ジャンルやランキング、言語などでチャンネルを検索して登録することが可能。登録チャンネル内に新しい番組がアップされると、自動でダウンロードしてくれる。

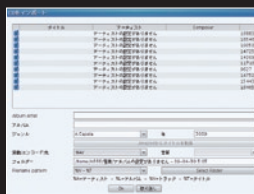
MusicやSports、News、Animationなどのカテゴリからチャンネル検索が可能。人気チャンネルランキングや動画の言語でも検索することができる

インストール方法：パッケージ
ライセンス：ー
公式サイト：http://www.getmiro.com/

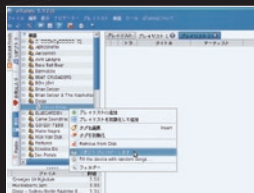
iPodから曲のコピーも可能な音楽管理ソフト aTunes

プレイリストで音楽を管理する多機能な音楽管理・プレイヤーソフト。ポッドキャストやインターネットラジオ、Last.fmなどにも対応しており、さらにiPodなどの携帯プレイヤーと連携して利用することも可能。

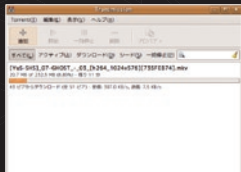
»ラジオやLast・FMにも対応

音楽CDからの楽曲の取り込みをはじめ、ローカル内の楽曲ファイルの管理、ポッドキャストやLast.fmなどのネットラジオの視聴、携帯プレイヤーの管理まで行える音楽管理・プレイヤーソフト。アルバムアートワークの表示やiPodからの楽曲のコピーなどにも対応している。

メニューのCDアイコンをクリックすると、CDから楽曲の取り込みが可能。もちろん特定の曲だけを取り込むこともできる

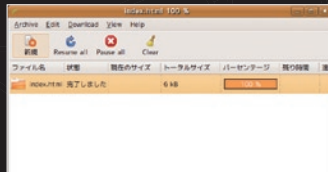
»iPodから曲を吸い出す

aTunesは、MP3が利用可能な携帯プレイヤーなら大抵利用することが可能。携帯プレイヤーに楽曲をコピーするだけでなく、携帯プレイヤーからローカルハードディスクへの楽曲のコピーも可能。ただし、iPodへの曲の追加は正式サポートしていないので注意。

携帯プレイヤーを接続したら「機器」タブを開く。プレイヤー内の楽曲が表示されるので、右クリックして「リポジトリーにコピーします」を選択

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.atunes.org/

BitTorrentクライアント Transmission

数多く存在するBitTorrentクライアントソフトのひとつ。シンプルな設計と軽快な動作が特徴

P2Pソフトとして有名なBitTorrentのクライアントソフト。torrentファイルは自動的に読み込まれるので、ファイルの送受信を行いたい場合はTransmissionを起動するだけでいい。ポートや速度制限などの設定もGUIで簡単に行える。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL、MIT
公式サイト：http://www.transmissionbt.com/

ダウンローダー Gwget

ファイルのダウンロード状況は専用ウィンドウに詳細表示される

Gwgetは、WebサーバやFTPサーバ上にあるファイルのURLを指定し、ダウンロードを行うツール。Linuxコマンドの「wget」と違うところは、大量のファイルを一括ダウンロードできる点だ。ダウンロードしたデータの破損がないかチェックする機能も備わっている。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.gnome.org/projects/gwget

Webサイトダウンローダー HTTrack WebSite Copier

お気に入りのサイトを丸ごとハードディスクに保存して、オフラインでも閲覧することができる

Webサイトのコンテンツをローカルのハードディスクに丸ごと保存できるダウンローダー。このツールで欲しいファイルを一括保存しておけば、いつでもオフライン環境でサイト閲覧が可能。複雑な設定は必要なく、Webブラウザからウィザード形式で設定するだけで取り込める。

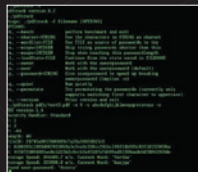
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.httrack.com/

2ちゃんねるビューワ おちゅ～しゃ

ブラウザ形式でスレが表示される。気になる記事のチェックもできるぞ

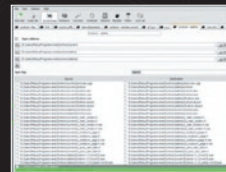
Linux上で動作する2chビューワのひとつである「おちゅ～しゃ」。タブ式のブラウジングとなっており、スレ内にある画像URLのリンク先がポップアップ形式で表示されるので非常に見やすい。よく見るスレはマイフォルダに登録しておくこともできるぞ。

インストール方法：ソースファイル
ライセンス：BSD/LGPLv2
公式サイト：http://ochusha.sourceforge.jp/

PDFパスワード解析ツール PDFCrack

操作はCUIがメイン。パスワードを忘れてしまった場合に便利

PDFファイルに設定されたパスワードを解析するツール。解析は総当たり（ブルートフォース）で行われるため、時間さえかければどんなパスワードも解析できる。設定したパスワードを忘れてしまった場合や、パスワードの強度を確認したい時に使おう。当たり前ではあるが、悪用は厳禁だ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://pdfcrack.sourceforge.net/

ファイル同期ソフト Synkron

ファイルの同期は、複数のユーザがひとつのファイルを編集する場合に必ず必要となる

ディレクトリの同期を行うツール「Synkron」。マルチOSに対応し、日本語化もされている。フィルタリング機能が備わっているので、ディレクトリ内の任意のファイルを同期対象外とする事もでき、バックアップやファイルのバージョン管理としても利用価値のあるソフトだ。

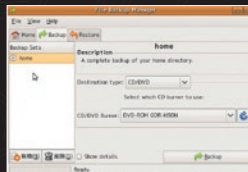
インストール方法：ソースファイル
ライセンス：GPLv2
公式サイト：http://synkron.sourceforge.net/

PC監視ツール Nagios

監視対象のサーバが現状どのような状況になっているのか一目瞭然

Nagiosは、サーバ及びネットワークの監視が自由自在に設定できるソフトだ。プロセス監視やリソース監視（CPU使用率、diskしきい値など）、ネットワーク監視機能などが設定でき、リモート監視ではSSH、SSLが使われるため、セキュリティ面でも安心できる。

インストール方法：ソースファイル
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.nagios.org/

バックアップソフト Pybackpack

バックアップ&リストアがGUI操作で行えるので初心者でも扱いやすい

ホームディレクトリ下の全てのファイルをCDやDVDに書き込み、バックアップを行うためのソフト。バックアップルールも任意に設定でき、メディアからのリストアも簡単に行うことができる。ホームディレクトリ下であれば、保存対象のファイルも変更する事が可能だ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：―
公式サイト：
http://andrewprice.me.uk/projects/pybackpack/

ファミコンエミュレータ GFCEU

GnomeフロントエンドのファミコンエミュレータLinuxでは定番といわれているぞ

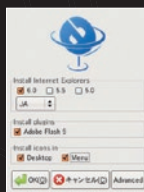
Ubuntu上で動作するファミコンエミュレータ。ゲームパッドやチートコードにも対応している。動作が軽い為、ロースペックのマシン上でも軽快に遊ぶ事ができる。ファミコンカセットの位置づけとなるROMイメージを作るには、別途イメージ吸い上げの機械を準備する必要がある。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://dietschnitzel.com/gfceu/

IEエミュレータ IEs4Linux

Windows専用のWebブラウザ「Internet Explorer」をLinux上で使う事ができるソフト。IEに慣れ親しんでいるLinuxユーザにとっては嬉しいソフトだ。

LINUX上でIEを動かそう

IEs4Linuxは、Internet Explorer 5.0、5.5、6.0をLinux上で使う事ができる。Ubuntuを含むLinuxでは標準WebブラウザとしてFirefoxが使われているが、「やっぱりLinuxでも使い慣れたIEを使いたい!」という人は、このIEs4Linuxを使うと良いだろう。

設定は非常に簡単。IEのバージョンとAdobe Flashプラグインの有無、リンクアイコンの表示場所にチェックを入れてOKを押すだけ

使うにはWINEが必要

IEs4Linuxを使う場合は、Linux上でWindowsをエミュレートするためのプログラム「Wine」が必要だ。Wineは公式サイト(http://winehq.org/)から入手できる。残念ながら最新のInternet Explorer 7.0にはまだ対応していないようだが、今後のバージョンアップに期待しよう。

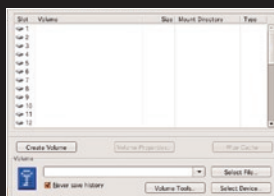
設定を行いOKボタンを押すと、IEのインストールが始まる

インストール方法：パッケージ
ライセンス：ー
公式サイト：http://www.tatanka.com.br/ies4linux/page/Main_Page

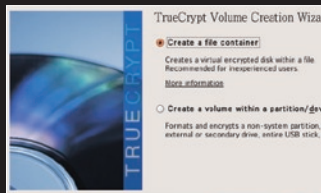
ファイル暗号化ソフト TrueCrypt

ドライブを暗号化し、ドライブそのものやファイルを隠す事ができるソフト。見られたくない無いファイルや流出したら困る個人情報などをPCに保存している際に役立つソフトだ。

USBメモリ内の暗号化も可能

ファイルやドライブの暗号化はもちろん、USBメモリ内の暗号化もできる事が強みだ。仮想領域の作成や設定は対話式で行われるため、迷うことなく暗号化ができるだろう。USBからファイルを取り出す側のPCはTrueCryptのインストールは必要ない。

画面は英語表示だが、構成がシンプルなのでわかりやすい

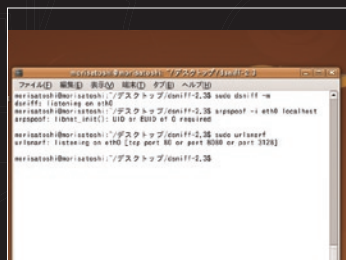
ダミードライブも作成可能

暗号化したドライブのほかに、ダミーとなるドライブを作る事もできる上、ダミードライブにダミーファイルを作る事も可能だ。パスワードによって双方のドライブを切り替える事ができるため、万が一クラッカーに進入されたとしても、ダミーによる偽装が可能だ。

個人情報などのデータの管理も、これを使えば安心だ

インストール方法：パッケージ＆ソースコンパイル
ライセンス：TrueCrypt Foundation
公式サイト：http://www.truecrypt.org/

ネットワーク監視ツール dsniff

NO ICON

ネットワークのTCP/IPパケットやパスワードの解析が行えるソフト。パケット監視のソフトではsnifferなどがあるが、dsniffは使いようによってはクラッキングツールとしても使える為、扱いには注意しなければならない。

パスワードの盗聴も可能

まずProxyサーバを立てておき、そこにこのソフトを仕掛けておく(起動はコマンド一つで行なえる)。通信の監視結果をログやファイルにリダイレクトしておけば、監視中のクライアントマシンがProxyサーバを中継してサーバにアクセスしたときに、入力されたパスワードなどの情報も取得できてしまうのだ。

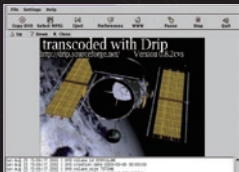
dsniffはインストールが少々やっかいであるが、一度導入してしまえば、起動や通信監視は非常に簡単だ

HUBを騙す機能

スイッチングHUBはパケットをブロードキャストせず、MACアドレスを選ぶ機能を備えているが、dsniffにはARP Poisoningという「騙し機能」があるため、本来送られていないパケットを受け取る事が可能だ。

パスワードを含めた通信監視機能のほか、HUBを騙す偽装機能も備えている

インストール方法：ソースコンパイル
ライセンス：GPL
公式サイト：
http://www.monkey.org/~dugsong/dsniff/

DVDリッピング Drip

GUI、DivXで閲覧する為のコンバートファイルはコマンドラインから行う

MPEG-4形式の高画質動画が楽しめるDivXで、DVDの動画が閲覧できるようになるソフト。一度DivX用のファイルが作成できれば、DivXがインストールされたどのマシンでも再生ができる。

インストール方法：ソースコンパイル
ライセンス：GPL
公式サイト：http://drip.sourceforge.net/

CDリッピング Grip

アルバム情報が自動で表示される

CDから音楽ファイルを抜き出し、PC上で聴く事ができるソフト（ファイル形式によってはエンコーディングが必要）。GUI 環境で操作が可能のため、設定が簡単で扱いやすい上にオプションも豊富だ。表示が便利で編集いらずである所も見逃せない。

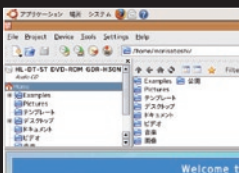
インストール方法：コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://nostatic.org/grip/

CD/DVDライティング X-CD-Roast

一般ユーザーの場合、使用に一部制限があるため注意が必要

ISOイメージからインストールCDを作りたい場合や、保存しておきたいパッケージやファイルをCD-Rに保存したいときに役立つソフト。メディアの複製も行なうことができ、設定やメディアの作成はGUI環境で行えるので操作がしやすい。

インストール方法：ソースコンパイル
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.xcdroast.org/

CD/DVDライティング K3b

インストールにはKDE環境が必須となる

CDやDVDのライティングソフトは数多く存在するが、k3bの特徴はスッキリとしたユーザーインターフェースとパラメータ指定によるカスタマイズのしやすさだろう。ユーザーごとに書き込み権限の指定ができるのも注目すべき点だ。

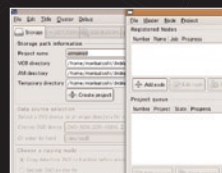
インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.k3b.org/

動画エンコーダ FFmpeg

ネットで入手した動画を扱いやすい別形式に変換しよう

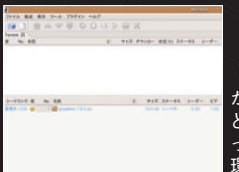
動画をAVIやMPEGなど任意の形式に変換ができる。PC上での動画閲覧、TVの録画や携帯電話で再生可能な動画形式に変換する事も可能だ。なんと「Youtube」や「ニコニコ動画」等で公開されている動画をMP3形式に変換する事もできるのだ。

インストール方法：パッケージ & ソースコンパイル
ライセンス：LGPL & GPL
公式サイト：http://ffmpeg.mplayerhq.hu/

DVDリッピング dvd::rip

DVDバックアップツールとしても活用できる

DVDから映像や音楽を抜き出せるリッピングソフト。DVDのコピーもできる事から、単なるリッピングツールでなくDVDバックアップソフトとしても活用できる。VOBファイルの結合や分離もできるため、ちょっとした動画の編集作業も行なえる。

インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.exit1.org/dvdrip/

BitTorrentクライアント Vuze

かつては「Azureus」という名称のソフトだった。動作にはJava環境が必要

今やウラ／オモテを問わずさまざまなファイルのやり取りに使われるBitTorrentネットワークだが、そのクライアントソフトのひとつ。日本語対応となっている上、IP別のフィルタリングや回線速度の制限機能など、細かな設定ができる。

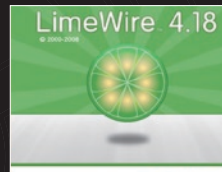
インストール方法：パッケージ & コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://azureus.sourceforge.net/

PS1エミュレータ ePSXe

懐かしのプレステゲームが、Linux上でプレイできるのだ

Linux上でプレイステーションのソフトが楽しめる、エミュレータのひとつ。インストール後に複雑な設定を行なう必要がある上、BIOSや数々のプラグインを導入する必要があるため難易度は高いが、動作するゲームも数多く、完成度は高い。

インストール方法：コマンドライン
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.epsxe.com/

P2Pファイル共有 Lime Wire

P2Pによるファイル交換が可能なソフト。開発はJavaで行われているため、Java環境は必須

通常P2Pでファイル交換する際はポートの設定などが必要になるが、Lime Wireはほとんど初期設定のままで使う事ができる。日本語をサポートしており、全体的な設定は回線速度やアップロード/ダウンロード先のフォルダの設定だけなので、初心者向けP2Pソフトだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GPL
公式サイト：http://www.limewire.com/

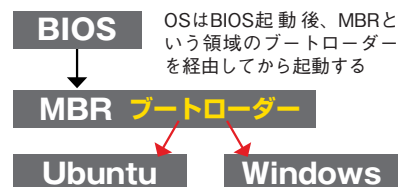
最強ブートローダーを使いこなせ!

GRUB野郎!

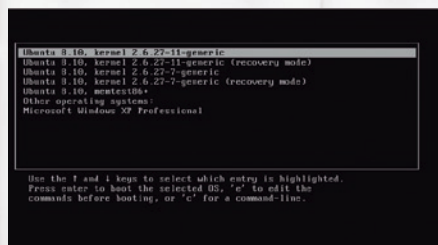
マルチブート環境を管理するブートローダー「GRUB」。そのツールを使いこなすためのテクニックを紹介しよう!

Linuxの起動とマルチブート環境を管理する「ブートローダー」

LinuxをはじめとするほとんどのOSは、電源投入後、直接起動しているわけではなく、BIOSがはじめに起動し、続いてブートローダーが起動、それからOSが起動される仕組みになっている。

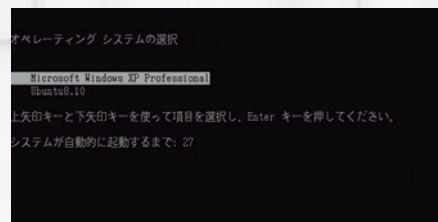
正確にいえば、ブートローダーは、HDDやCD-Rなどの先頭部分に当たるMBR（Master Boot Record）という領域に書き込まれているが、サイズは512バイトしかなく細かい作業をすることはできない。そこで、ブートローダーは、2次ブートローダー（ブートマネージャ）というプログラムを呼び出し、そこからOSを選択して起動することになる。GRUBをはじめとするブートローダーは、2次ブートローダーになるのだ。本誌では、2次ブートローダーを含めてブートローダーと呼ぶ。

現在主流のブートローダーは3種類

ブートローダーにはいくつかの種類があるが、現在Linux系のOSで主流となっているのは、GRUBだ。また、GRUB以前にはLILOというシンプルなブートローダーが利用されることが多かったが、設定ファイルの変更作業が大変などのデメリットがあるため、あまり使われなくなっている。一方、Windowsでは、NTLDRというブートローダーが標準で、「boot.ini」というファイルを編集するだけで設定を行うことができる。LinuxとWindowsのデュアルブート時にも利用可能だが、その場合、Linuxを起動するときは、NTLDR→GRUB→Linuxの起動という手順となる。なお、Vistaでは「Windows Boot Manager」というブートローダーが採用されている。

GRUB (GRand Unified Bootloader)

多くのLinuxディストリビューションに標準採用している高機能なブートローダー。コマンドライン操作が可能

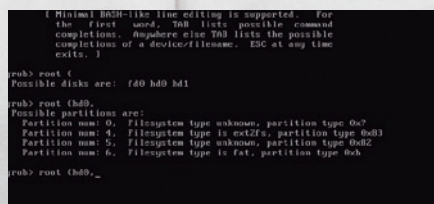
LILO (LInux LOader)

かつてLinuxで標準的に利用されていたブートローダー。シンプルなのが魅力だが、メンテナンスに手間がかかるなど、デメリットも多い

NTLDR (NT Loader)

XPを含むWindowsNT系で利用されているブートローダー。LinuxなどNT系以外のOSも起動させることができるが、Linuxを起動するときは、別途GRUBなどが必要になる

UbuntuではGRUBが標準

人気のLinuxディストリビューションUbuntuでは、GRUBが標準のブートローダーとして採用されている。Ubuntuのみ利用している場合は、標準でGRUBのインターフェイスはスキップされているが、設定を変更しておけばOSが1種類しかなくてもGRUBのメニューを出すことができる。その場合、違うカーネルを使ってUbuntuを起動したり、メモリテストを行うことが可能だ。

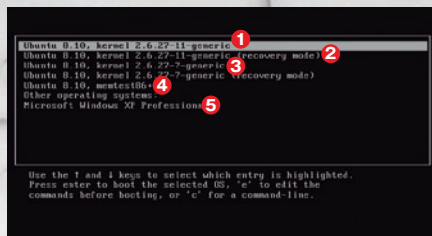
コマンドライン操作が可能

GRUBではコマンドライン操作でシステムの状態を調べてOSを起動できる

GRUBが対応するファイルシステム

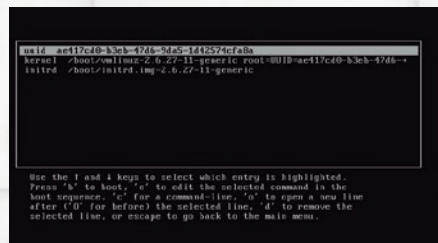
- FFS
- UFS2
- FAT16/32
- ext2/ext3
- NTFS
- ReiserFS
- JFS
- XFS
- Minix FS

GRUBの基本的な使い方をチェック

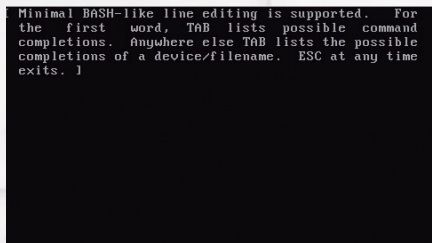
GRUBが起動し、何も操作をしないと画面下のカウントが進み、標準のOSが起動する。キーボードのキーをなんでもよいので入力した場合はカウントが止まり、起動するOSをカーソルキーで選択することが可能だ。また、「e」キーを押すとOSの編集を行うエディットモード「c」キーを押すと、専用のコマンドを実行できるコマンドモードに入れ替わる。元のメニューに戻るときは「ESC」キーを押せばよい。

GRUBの基本画面

WindowsXPとのデュアル環境でのGRUBの基本画面。カーソルキーで項目を選択して、Enterで決定

❶最新カーネルでUbuntu8.10を起動する。
❷リカバリーモード(シングルユーザーモード)でUbuntu8.10を起動する。
❸安定した旧カーネルでUbuntu8.10を起動する。
❹高い負荷をかけてメモリのテストを行う。
❺Windows XPを起動する。

エディットモード

メニュー画面で「e」を押すと起動するOSの編集を行うエディットモードになる

コマンドモード

```
[ Minimal BASH-like line editing is supported.   For
  the   first   word,  TAB  lists  possible  command
  completions.  Anywhere else TAB lists the possible
  completions of a device/filename.  ESC at any time
  exits. ]
```

メニュー画面で「c」を押すとコマンドモードになり、grub専用のコマンドを利用できる

Windows→Linuxの順にインストールすればデュアルブートが簡単にできる

WindowsとLinuxのデュアルブート環境を構築したいときは、はじめにWindowsをインストールし、それからLinuxをインストールすれば自動的にGRUBでWindowsとLinuxを選択できるデュアルブートができるのでおすすめだ。一方、逆にインストールしてしまうと、複雑な設定が必要になるのだ。

GRUBの設定ファイルを直接編集してみよう

GRUBのすべての設定は、「/boot/grub/menu.lst」のファイルを編集すればよい。編集には管理権限が必要になるので「sudo」を付けてエディタを開き、変更しよう。設定できる主な項目は、標準で起動するOS、タイムアウトするまでの時間、GRUBメニューの文字色と背景色、それから起動するOSのオプション、名前の変更などだ。なお、設定にミスがあるとOSがうまく起動しなくなる可能性もあるので慎重に行おう。

1 設定ファイルを開く

```
writer@writer-desktop:~$ sudo gedit /boot/grub/menu.lst
```

端末を起動して、「sudo gedit /boot/grub/menu.lst」と入力し、GRUBの設定ファイルを開こう

2 設定ファイルの編集

geditで設定ファイルが開くので、編集して上書き保存する

おもな設定項目

```
title     Ubuntu 8.10, kernel 2.6.27-11-generic
uuid      ae417cd0-b3eb-47d6-9da5-1d42574cfa8a
kernel    /boot/vmlinuz-2.6.27-11-generic root=UUID=ae417cd0-b3eb-47d6-9da5-1d42574cfa8a ro quiet splash
initrd    /boot/initrd.img-2.6.27-11-generic
quiet
```

OSの設定。「title」は表示タイトル名、「uuid」はパーティションのID、「initrd」はinitrdイメージの指定

```
title          Microsoft Windows XP Professional
root           (hd0,0)
savedefault
makeactive
chainloader    +1
```

Windowsを指定する場合の記述方法。Windowsを先にインストールしておけば自動的に記述される

```
default 0
```

タイムアウトしたときに起動するOS。OSの記述順で、上から0、1、2となっている

```
timeout 10
```

何も操作しないでデフォルトのOSが起動するまでの時間を秒数で指定する。初期状態では10秒

```
color red/black green/bluea
```

メニューの色を指定する。/の前がフォアグラウンドの色、/の後はバックグラウンドの色。後半部分は選択時の色となる

設定はGUIのソフトを使おう

GRUBの設定は、設定ファイルを記述するよりも、次ページ以降で紹介している「StartUp Manager」を利用した方が簡単だ。

StartUp Managerを使ってGRUBを簡単に設定しよう

GRUBの設定を変更するためには、設定ファイルを直接書き換える必要があり、初心者には敷居が高い。そこで、GUIで簡単に設定が行える「StartUp Manager」というソフトを導入してみよう。

StartUp Managerは、GRUBのカスタマイズのほか、起動スプラッシュの設定ができるソフトで、標準で起動するOSの変更、メニューの色や背景色の変更、自動起動するまでの秒数、セキュリティパスワードの設定などを行うことができる。また、GRUB以外では、スプラッシュテーマの変更、解像度の変更、スプラッシュの表示のオンオフなどを設定することが可能だ。

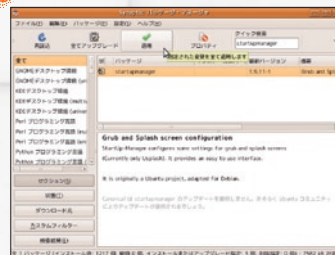
StartUp Manager
作者●Glenn Van Loon back
インストール方法●「Synaptic・アプリケーションマネージャ」より

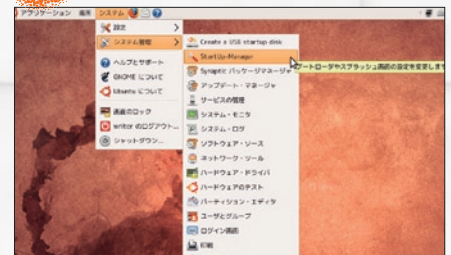
通常は設定ファイルの編集が必要なGRUBの設定をGUIで簡単に行うことができる

StartUp Managerをインストールして起動する

StartUp Managerのインストールは、「Synapticパッケージマネージャ」を起動し、「startupmanager」というキーワードで検索すれば、簡単にインストールすることができる。インストール後は、「システム」→「システム管理」→「StartUp-Manager」から起動することが可能だ。StartUp Managerは管理権限が必要になるので、起動時にはパスワードを要求されることになる。

なお、アンインストールしたい場合は、同様に「Synapticパッケージマネージャ」から行えばよい。

1 StartUp Managerのインストール

「システム」→「システム管理」→「Synapticアプリケーションマネージャ」を選び、「startupmanager」を検索してインストールする

2 StartUp Managerを起動

メニュー「システム」→「システム管理」→「StartUp-Manager」を選択して、StartUp Managerを起動しよう

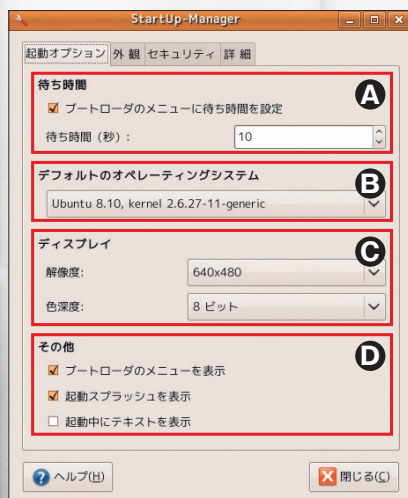
「起動オプション」を変更する

StartUp Managerはタブ切り替え式のインターフェイスを持っており、「起動オプション」タブでは、ブートローダーに関する基本的な設定を行うことができる。具体的には、デフォルトのOSが起動するまでの待ち時間の秒数指定、デフォルトのOSの変更、ローディング時のディスプレイ解像度の変更などだ。

そのほか、ブートローダーのメニュー自体を表示・非表示する設定と、起動スプラッシュを表示するかどうかの設定も行うことができる。

選択できるOSの数を増減させるには?

StartUp Managerでは、OSの削除や追加を行うことはできないので、数を増減したいときは設定ファイルを直接編集しよう。

起動オプション

おもにブートローダーに関する挙動を設定するオプション

A 待ち時間

ブートオプションが表示される時間を秒数で指定する。待ち時間なしの場合は、秒数のカウントがなくなり、選択するまでOSは起動しなくなる

B デフォルトのオペレーティングシステム

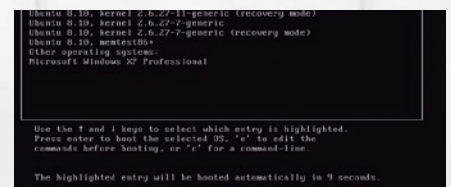
待ち時間を設定していたとき、時間が切れたときに自動的に起動するOS。「Last used」を選択すると、最後に起動したOSが起動するようになる

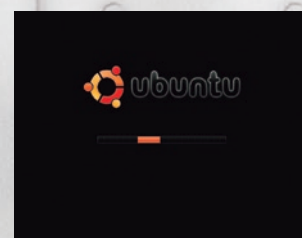
C ディスプレイ

ローディング時の解像度を選択する。ローディング時の情報はそれほど多くないので、「640×480」「8ビット」のままがよいだろう

D その他

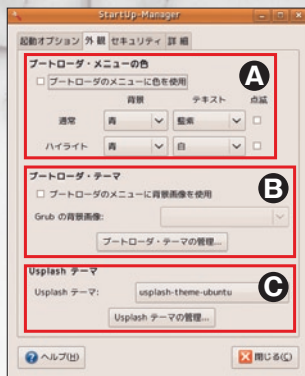
ブートローダー、起動スプラッシュ、起動テキストを表示するかどうかのオプション。起動スプラッシュは「外観」タブで変更することも可能だ

ブートローダーの待ち時間

ブートローダー起動時に、一番下に表示されるカウントダウンされる秒数のこと

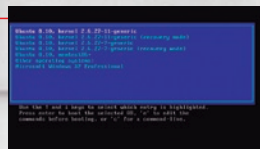
起動スプラッシュ

起動時にアニメーションで表示される画面のこと

「外観」を変更する

「外観」タブでは、ブートローダーの外観に関する設定を行うことができる。ブートローダーのメニューや背景に色を付けたり、背景色を設定することが可能だ。なお、背景画像を変更する場合は、解像度640×480で色数14色という制限がある。これを超える画像の設定もできるが、画像自体がぐちゃぐちゃになってしまうことがあるのでさけた方がよいだろう。

外観

ブートローダーとスプラッシュ画面の外観を変更するためのオプション

A ブートローダ・メニューの色

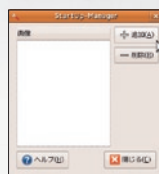
ブートローダの文字色と背景を設定する。「ブートローダのメニューに色を使用」にチェックで有効になる。テキストを点滅させることも可能だ

ブートローダーメニューの変更例

ブートローダーに色を付けた画面。色の配置次第では初期状態より見やすくなる

B ブートローダ・テーマ

ブートローダの背景画像を設定する。画像は「ブートローダ・テーマの管理」から読み込める。なお、読み込む画像はJPEGなども可能だが、色数が多いと逆に汚い画像になってしまうので注意しよう。下の囲みでGIMPで背景として最適な画像を作成する方法を紹介している

1 テーマの管理を開く

「ブートローダ・テーマの管理」ボタンをクリックし、「追加」ボタンを押す

2 画像の指定

背景にしたい画像ファイルを選択

3 背景画像を有効にする

「ブートローダのメニューに背景画像を使用」にチェックを入れ、「Grubの背景画像」のリストから選択した画像を選ぶ

4 背景画像の変更

ブートローダーに背景画像が表示されるようになる

C Usplashテーマ

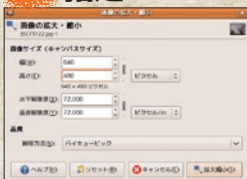
ブートローダーでOS選択後のスプラッシュ画面を変更するオプション。スプラッシュ画面のデータは、ネットからダウンロードすることが可能だ

GIMPでGRUB用背景画像を作成する

ブートローダー用の背景画像を作成したいときは、Ubuntuに標準でインストールされている画像編集ソフトGIMPを利用しよう。画像を読み込んでサイズとカラー数を変更して、「.xmp」形式で出力すればよい。

1 画像の読み込み

編集したい画像をGIMPで読み込んでおき、メニュー「画像」→「画像拡大縮小」を選ぶ

2 画像サイズの指定

「幅」を「640」、「高さ」を「480」に変更して「拡大縮小」ボタンを押す

3 インデックスカラーに変換

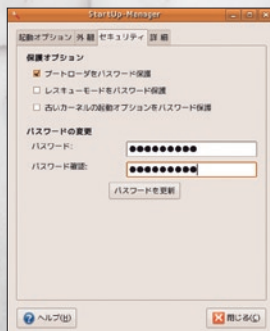
メニュー「画像」→「モード」→「インデックス」を選び、「最適パレットを生成」の「最大色数」を「14」、「ディザリング」を「Floyd-Steinbergディザリング（使用される色数を減らす）」にする

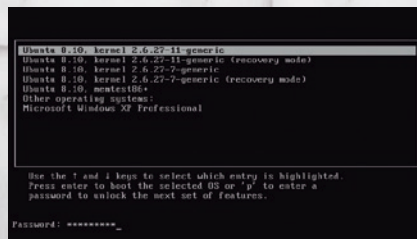
4 画像の出力

メニュー「ファイル」→「名前を付けて保存」を選び、拡張子「.xpm」でファイル名を付けて保存する

「セキュリティ」を設定する

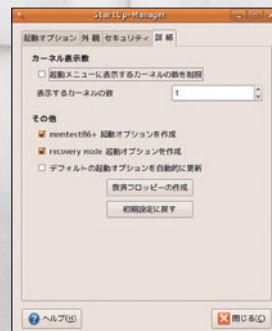
「セキュリティ」タブでは、ブートローダーをパスワードで保護することができる。なお、パスワードは起動時に入力するのではなく、ブートローダーのメニュー自体を編集するときに要求されるので、コンピュータ自体のロックとしては役に立たない。

セキュリティ

ブートオプションの編集作業をするときなどにパスワードを設定することが可能

ブートローダーをパスワード保護

「ブートローダをパスワード保護」にチェックを入れ、パスワードを設定しておくと、ブートローダ画面でブートローダを編集するにはPキーを押してから、パスワードを入力しないと編集できなくなる

「詳細」を設定する

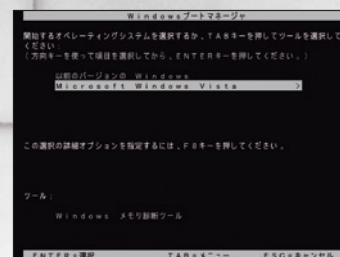
「詳細」タブでは、リカバリーモードやメモリテストといった特殊なOSを、有効にするかどうかの設定を行うことができる。

詳細

カーネルの表示数やメモリテスト起動オプションを有効にするかどうかの設定を行う

Windowsインストールなどで壊れてしまったGRUBを修復する

Linuxをインストールした環境であれば、パソコンの電源を入れBIOS起動後、自動的にGRUBが起動するが、その環境にWindowsをインストールしてしまうと、Linuxとは別のパーティションにインストールした場合でも、MBRが上書きされてしまい、Windowsしか起動しないようになってしまう。しかし、その場合もLinux自体が削除されてしまったというわけではなく、GRUBさえ修復するかインストールし直して設定を元に戻すことができれば、マルチブート状態に戻すことができるのだ。

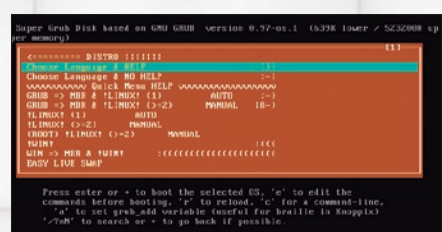
修復の方法はいくつかあるが、ここでは「Super Grub Disk」という単体で起動してMBRを修復してくれるツールを活用する方法と、UbuntuのインストールCDから起動して、GRUBを再インストールし、設定を編集する方法を紹介しよう。

Linuxが起動できなくなる

Linux環境にWindowsをインストールすると、MBRが書き換えられてLinuxが起動できなくなる

Super Grub Diskを使ってMBRを修復する

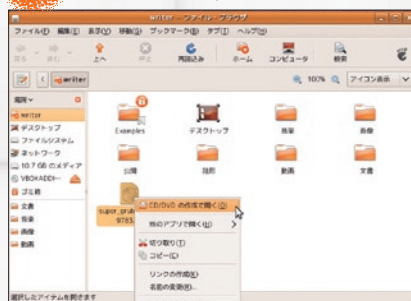
「Super Grub Disk」は、GRUBの修復を行ってくれるリカバリー用ソフト。CD-Rなどから単体で起動できるツールで、設定メニューを選ぶだけでGRUBを正常な状態に直してくれるほか、Windowsが起動しない場合も修復できることがあるので、正常に起動している状態の時に、リカバリー用として用意しておくとよいだろう。

なお、Super Grub Diskは、CD-Rだけではなく、USBメモリ用やフロッピーディスク用も用意されている。パソコンにフロッピードライブがある場合やUSBメモリ起動に対応しているマザーボードを利用しているならば、そちらを使っても問題ない。

Super Grub Disk
作者●adrian15　ファイル名●super_grub_disk_0.9783.iso
URL●http://www.supergrubdisk.org/

CD-RやFDDから起動し、GRUBを修復してくれる便利なツール。Windowsが起動しなくなった場合も利用できる

1 Super Grub DiskのイメージをCD-Rにライティング

「Super Grub Disk」は、CD-R用やフロッピーディスク用など数種類かあるが、ここではCD-R用をCD-Rにライティングする方法を紹介する。Ubuntuであれば、イメージファイルを右クリックして、「CD/DVDの作成で開く」を選べば、自動的にイメージファイルとして認識されライティングされることができる。なお、イメージファイル自体を単なる1つのファイルとしてCD-Rにライティングしてしまうと起動することができないので注意しよう。

1 右クリックからCD/DVDメニューへ

ファイルブラウザで「super_grub_disk_0.9783.iso」を右クリックし「CD／DVDの作成で開く」を選ぶ

2 イメージファイルでライティング

「書き込み先」を「CD-ROM」にしておき「書き込み」ボタンを押して、CD-ROMにライティングする

2 Super Grub Diskを起動して、MBRを修復しよう

Super Grub Diskは、CD-Rなど書き込んだメディアをドライブに入れて電源を入れるだけで自動的に起動してくれる。GRUBを修復する手順は、メニューは一見するとわかりにくいが、「GRUB => MBR & !LINUX! (>=2)」を選択し、OSの入ったパーティションを選び、そこから起動するOSを選択するだけでOKだ。正常にLinuxが起動すれば、GRUBも修復されている。

なお、Windowsが起動しなくなった場合は、「WIN => MBR & !WIN!」を選べば、Windowsを起動して修復することができる。

1 Super Grub Diskの起動

作成したディスクからSuper Grub Diskを起動し、メニューから「GRUB => MBR & !LINUX! (>=2)」を選択

2 パーティションの選択

リストにOSが入ったパーティションを選んでEnterキーを押す

3 起動するOSを選ぶ

リストから起動したいOSを選んでEnterキーを押して起動する。この時点でGRUBは修復されている

UbuntuのインストールCDから修復する

Ubuntuをインストール環境のGRUBを修復するならば、UbuntuのインストールCDからでも可能だ。作業の流れとしては、インストールCDのメニューにある起動オプションを使ってUbuntuを起動させ、それからGRUBをインストールするという流れになる。Ubuntu自体が起動できない場合は、この方法を使うことができないので、そのときはSuper Grub Diskを利用しよう。

1 UbuntuのインストールCDから起動オプションで起動

はじめにUbuntuのインストールCDを入れてパソコンを起動し、メニューが表示されたらF6キーを押して起動オプションの入力状態にする。このとき、「boot=casper」の部分を「root=/dev/sdb1」という風に書き換えて、Ubuntuがインストールされたパーティションを指定する。「sdb1」の部分がパーティションの指定になるが、よくわからない場合は「sda1」「sda2」「sdb2」、HDDがIDE接続の場合は、「hda1」「hdb1」などを試してみよう。

1 インストールCDから起動

UbuntuのインストールCDをドライブに入れて起動し、メニューが表示されたら、F6キーを押す

2 起動オプションから起動

起動オプションの「boot=casper」の部分を「root=/dev/sdb1」に変更する。「sdb1」の部分は「sda1」「sdb2」など、Ubuntuが入ったパーティションを指定しよう

2 MBRにGRUBをインストールする

無事にUbuntuが起動できたら、端末を起動して、GRUBをインストールする。インストールは、「sudo /usr/sbin/grub-install /dev/sdb」と入力すればよい。このとき、「sdb」の部分は、Ubuntuをインストールしたドライブを指定する。「sdb1」で起動したら「sdb」、「sda1」で起動した場合は「sda」にしておこう。インストールが完了したらUbuntuの起動はできるようになる。

1 GRUBをインストール

正常にUbuntuが起動できたら、端末を起動し、「sudo /usr/sbin/grub-install /dev/sdb」と入力する。最後の「sdb」の部分はUbuntuが入ったドライブを指定しよう

2 インストール完了

正常に書き込まれると、上記のようなメッセージが表示される。エラーが出る場合は下の手順を確認してほしい

GRUBのインストール時にエラーが出る場合

複数のドライブがある場合、GRUBのインストール時にエラーが出てしまうことがある。その場合は、「device.map」というファイルを開いて、「(hd1) /dev/sdb」のように追加されていないドライブを記述しておこう。

「device.map」を開く

端末で「sudo gedit /boot/grub/device.map」と入力して、テキストエディタを開く

デバイスを追加

エディタが開いたら、画面を参考に、Ubuntuの入ったドライブを付け加えよう

3 GRUBの設定ファイルを書き換えて元に戻す

GRUBをインストールしただけだと、HDD内にWindowsがインストールされていたとしても、GRUBのメニューからはUbuntuしか起動できないようになっている。そこで、GRUBの設定ファイルを開き、Windowsに関する設定をしておこう。Windowsの設定を追加しておけば、GRUBのメニューでWindowsを選ぶことが可能になり、WindowsとUbuntuの両方が起動できるようになる。

1 GRUBの設定ファイルを開く

端末で「sudo gedit /boot/grub/menu.lst」と入力して、設定ファイルを開く

2 Windowsを追加

「#hiddenmenu」の前の「#」を削除し、ファイルの最後にWindowsの設定を追加する（101ページ参照）

3 デュアルブート環境が復活

これでUbuntuのWindowsのデュアルブート環境が復活するぞ

質問01

Ubuntu Japanese Teamとはどのようにして出来上がった組織なのでしょうか。簡単な概要や沿革、活動歴などをお聞かせください。

(小林)[a] Ubuntuが最初にリリースされたのは2004年10月ですが、まだ日本語入力がサポートされていない状態でした。そこで、私を含む有志で日本語入力やその他の日本語サポートを入れたインストールCDを作って公開しました。これが、Ubuntu Japanese Teamをはじめたきっかけです。その後、MLやフォーラムの運営をはじめ、オープンソース関係のイベントへ参加することにより協力者が増え、それによってできることも増えていった、という感じです。

質問02

サイトに記載されている内容以外にも、なにか活動などはされておられるのでしょうか。

(吉田)[b] 直接日本語とは関係のないバグ報告や、雑誌記事の執筆などを行っています。単に記載が漏れているだけという気もします。

質問03

メンバーの皆さんは普段からコンピュータ関連の仕事をされているのでしょうか。

(水野)[c] Linuxを使用した開発、運用の仕事をしています。対象はUbuntuではありませんが、やっていることは似たような感じです。

(やまね) 社内のシステム管理(Windowsサーバ/クライアント)とかやってます。Ubuntuまったく関係ありません)

(吉田) Unix全般のシステム管理やらを仕事にしています。Ubuntuでやっていることとそれほど変わりません。

(小林) 私は一人で会社をやっていて、主にLinuxに関係したシステムの構築や管理、開発、それに付随するコンサルティングを行っています。前はDebianを使っていたのですが、今はUbuntuサーバを使ったシステムばかりになりました。

質問04

Japanese Teamは頻繁にオフラインでミーティングのようなことを行っているのでしょうか。

(水野) TeamのミーティングはIRCのみで、オフラインで集まるのはOSCのようなイベントの時のみです。が、同じ会社に勤めている方もいますので、そういう方とは日常的に顔を合わせています。

(吉田) ミーティングはすべてオンラインで行っていますので、「打ち合わせ」という意味ではオフラインで行うことはありません。イベントとしては「Ubuntuオフラインミーティング」というものを広瀬電工株式会社様に会場をお借りして、東京・秋葉原で行っています。また、オープンソース系のイベントなどに最低年5回程度は参加するようにしています。

(小林) 重要な相談は、記録が残り公開もできるオンラインで行うようにしています。その場にいない人が議論に参加できない、という状況を避けたいからです。

質問05

個人的な意見で構わないのですが、そもそも何がきっかけでUbuntuに興味をもたれた、あるいはJapanese Teamに参加されたのでしょうか。

(水野) Windowsに依存しないデスクトップ環境が欲しかったという前提があり、そこに使いやすいLinuxとしてUbuntuが登場したからですね。自分が使うOSをもっと自分好みにするため、活動に参加するのは当然のことです。Windowsではこういうことはできませんが、Linuxなら可能ですから。

(やまね) UbuntuがDebianの派生ディストリビューションとして出てきたこと、ですね。良いところをDebianへフィードバックしたかったので。

(小林) Ubuntuをはじめて見たときに一目惚れしました。他のLinux OSに比べて、ロゴや画面のデザインが良く感じたので…… はじめて見たその日に、UbuntuのWebサイトを読み込んで、「これは普及するに違いない、もしかしたらWindowsのシェアを奪えるOSになるかもしれない」と思ったので、日本でUbuntuに関する活動をしようと決めました。

質問06

ちなみにJapanese Teamとはだれでも参加可能なものなのでしょうか。

(水野) Ubuntuに対して継続的に貢献していく意志をもっていれば大丈夫です。が、やはりやる気だけではダメなのも現実ですので、FLOSS[d]に対する理解が必要です。

(吉田) 一定の実績を積み、資格があることを示せばどなたでも参加できます(https://wiki.ubuntulinux.jp/JapaneseTeamMember)。また、「メンバー」として認定されるわけで

a……「Ubuntu Japanese Team」のリーダー。Ubuntuの導入などを行う「コバヤシステム」を経営されている。Ubuntu好きな人はこの会社に依頼すると、Ubuntu Japanese Team の一番偉い人が導入してくれる？
b……某ポータルにて精力的に記事を連載されている。次号でやろうと思っていた内容をあっさり取り上げられてがっかりした(質問者)こと数知れず。いっそ執筆をお願いしたい
c……吉田氏と同じサイトでやはりUbuntuについて執筆

Japanese Teamに

オープンソースながら高い完成度で大人気のUbuntu。だが「Ubuntu Japanese Team」について詳しく知っている人はあまりいないと思う。ここではUbuntu Japanese Teamのメンバーに質問を投げかけてみたぞ

文中敬称略

はありませんが、フォーラムやWiki、MLやイベントに参加して頂いている方は、すべて「Japanese Teamの一員」です。

（小林）Japanese Teamの活動に参加したり、意見を言うのは自由です。「メンバー」という資格を設けているのは、一定の貢献を行った人が、活動方針の決定に参加すべきだと考えているからです。

質問07

フォーラムなどを見ていると、メンバーの方も割と頻繁に書き込まれているようですが、これは担当が決まっていたりするのでしょうか。

（水野）一般的な書き込みは、メンバーとしてではなく個人として行っています。

（吉田）いいえ、各メンバーが「自分にできること」として活動しています。フォーラムなどで回答するのも「できること」の一環ですね。

質問08

変な質問ではありますが、半年に一度、定期的にリリースされ、すぐに日本語版を作成されるとなると、ただ気楽にできるものではないかと思います。バグの発生などもあり得るかと思いますが、「コレ（Japanese Team関連の作業）さえなければ!!」など思われたことはありますか。

（水野）好きでやっていることなのでそういう思いはありませんが、日程的にきついことは多々あるように思います。

（小林）自分で選んでやっていることですので、そういう思いを持ったことはありません。

質問09

日本語Remix版などの作成作業はなかなか大変かと思いますが、どなたかがきっちり全体を管理して進められるのでしょうか。

（やまね）それは作業者に聞いてみないと

（吉田）誰も作業管理はしていませんねぇ……。やっぱりこれも、「自分にできること」を随時やっていく形です。最低限のToDoリストは作成して管理していますが、これも選任の担当者がいるわけではありません。

（小林）なお、日本語 Remixの作成自体はそれほど大変な作業ではありません。Ubuntuの成果を利用して少し手を加えているだけですし、以前よりもUbuntuの日本語対応がよくなっていますので、手を加える部分も減少傾向にあります。それよりも、バグの管理、翻訳、イベントの開催や参加、雑誌などへの記事の執筆、MLやフォーラムでの対応といった活動のほうが、大きくなりつつあるように思います。

質問10

Ubuntu以外で日常使っているOSや、注目のLinuxディストリビューションなどはありますか。

（水野）日常生活では主にMacを使用しています。あとは業務でCentOSを使っていたり。クライアントとしての使用時間でいうとUbuntuは少ない方かもしれません。

（やまね）[e]Ubuntu使っていないです……すいません。日常は会社はWindows、自宅はDebianです。今後注目ですか……Nexentaとかでしょうか。

（吉田）WindowsとOpenSolarisとMac OS Xを使っています。

（小林）メインの環境はUbuntuですが、WindowsとMac OS Xも使っています。今後は……モバイル端末向けのOSとして、UbuntuとAndroidやMoblin、Windows 7がどのようにシェアを争っていくかに注目しています。

質問11

ある程度、初心者でも扱えるディストリビューションは以前からあったかと思いますが、Ubuntuがそれら以上に認知された理由など、簡単で構いませんのでお教えください。

（水野）従来のLinuxは初心者には扱いづらいものでしたが、Ubuntuはそういった要求に対し、きちんと正面から向かい合って解決策を提示している部分が大きいと思います。

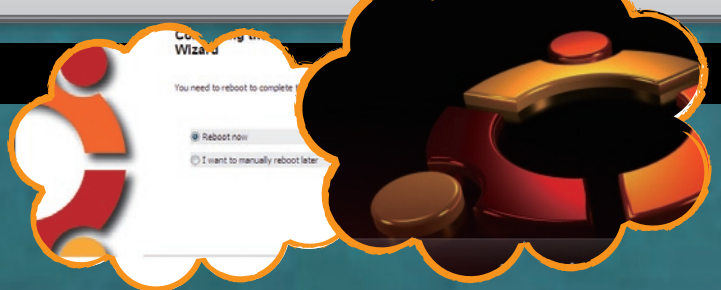
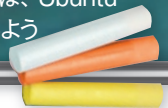
（やまね）初心者でも扱えるディストリビューションを目標に掲げて実践していたのはなかったように思います。

（吉田）莫大なリソースを、クリティカルマスに達するまで注ぎ込んだことと、ベースがDebianだからでしょうか。UbuntuにとってDebianのソフトウェア資産は非常に重要です。

（小林）Ubuntuは初心者でも扱えるというだけでなく、サーバもあり、最近はモバイルの分野にも進出しようとしています。共通のコードをベースにしたひとつのOSが、あらゆる分野での普及を狙っていて、しかもフリーというのはこれまで例がないように思います。そして、Canonical社にそれを成し遂げるだけの戦略や資金力があるように見えることが、広く認知されるようになった理由のひとつだと思います。

－お忙しいところ取材をお受けいただきありがとうございました－

されている。また、１月のオープンソースカンファレンスなどでも吉田氏と講師を務められていた
d……フリーソフトとオープンソースをまとめた概念としての言葉。Free/Libre and Open Source Software の頭文字を抜粋したもの
e……Debian JP Project でも精力的に活動されている模様。ちなみに Nexenta とは Solaris カーネルを採用した Ubuntu は製のディストリビューション。VMware などでの試用も可能

Linux初心者にはオススメ Ubuntu超基礎講座

Ubuntuは、数あるLinuxディストリビューションの中で、現在、最も人気が高いディストリビューションだ。このため、ネット上での情報交換も非常に活発に行われており、初心者でも安心して使用できるディストリビューションだ。ここでは、Ubuntuのインストール手順等について解説しよう

Ubuntuの新規インストール手順

Ubuntuのインストールは、最新ISOイメージを入手し、それをDVD-Rなどに記録してライブDVDを作成する必要がある。ISOイメージは、本誌付属のDVD-ROMにも収録されている。ここでは、Ubuntu 9.0.4及び8.1.0のインストール手順を説明する。両者のインストール手順は、一部画面が異なる場合があるものの基本的には同じである。このため、特に大きな変更が無い限りは、9.0.4をベースに説明を行っている。

1 ライブDVDの起動

ライブDVDをドライブにセットして、PCを起動すると、起動メニューが表示される。カーソルキーを使用して「Ubuntuをインストール」を選択して、「Enter」キーを押し、インストールを開始する

POINT インストールが途中から進まないときは?

途中から画面に何も表示されなくなり、インストールが止まってしまう場合は、起動メニューで「F4」キーを押し、メニューから「セーフグラフィック」を選択してから起動しよう。インストール成功率がアップする

2 インストーラの言語の選択

インストーラが起動したら、表示言語を選択する。初期値では、「日本語」が選択されているはずだが、異なっていた場合は､「日本語」を選択する。また、設定が終わったら「進む」をクリックする

3 使用地域（タイムゾーン）の選択

9.0.4の場合

時刻の設定を行う。初期値では、地域が「Asia」、都市が「Tokyo」と設定されおり、地図上に現在時刻が表示されているはずだ。問題がなければ、「進む」をクリックする

8.1.0の場合

時刻の設定を行う。初期値では、選択された都市が「Tokyo」、地域が「日本」と設定されおり、現在時刻等が表示されているはずだ。問題がなければ、「進む」をクリックする

4 キーボードの設定

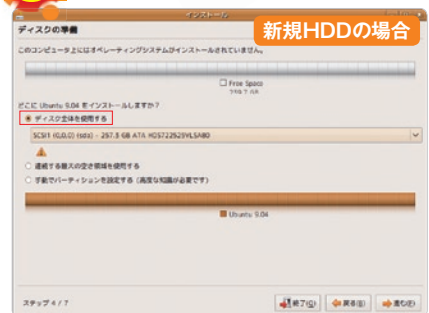
9.0.4の場合

キーボードレイアウトを設定する。日本語キーボードの場合は、既定値の「Japan」で問題ない。また、「自分で選択する」を選択すれば、希望のレイアウトを設定できる。設定が終わったら、「進む」をクリックする

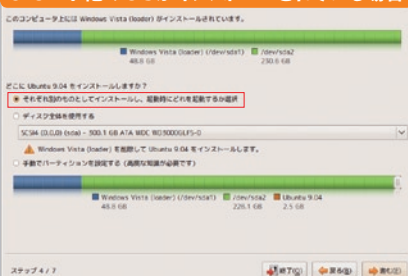
8.1.0の場合

キーボードレイアウトを設定する。日本語キーボードの場合は、通常、初期値の左右とも「Japan」のままで使用できる。変更したい場合は、希望のレイアウトを選択する。設定が終わったら、「進む」をクリックする

5 インストール先の設定

新規HDDの場合

「ディスク全体を使用する」（9.0.4の場合）/「ディスク全体を使う」（8.1.0の場合）が選択されている。複数のHDDがあるときは、インストール先HDDを確認し､「進む」をクリックする

5 インストール先の設定

9.0.4。他のOSがインストールされている場合

「それぞれ別のもの」が初期値で選択されている。複数のHDDが接続されている場合は、インストール先HDDをリストから選択し、「進む」をクリックする。パーティションのリサイズは、パーティション設定を参照

8.1.0。他のOSがインストールされている場合

「ガイド-パーティションを～リサイズ～」が初期値では選択されている。パーティションのリサイズを行う場合は、パーティション設定を参照してほしい。このまま進む場合は、「進む」をクリックする

6 アカウントの設定を行う

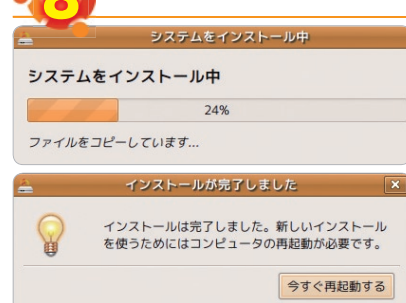
Ubuntuで使用するアカウントの設定を行う。ユーザー名やログイン名、パスワード、コンピュータの名称等の設定を行い、必要に応じて、自動ログインに関する設定も行う。設定が終わったら「進む」をクリックする

7 設定を確認する

これまで行った設定を確認する。「戻る」をクリックすると再度設定が行える。設定の確認が終わったら、「インストール」をクリックし、インストール作業を開始する

POINT ブートローダーの設定について

「拡張」をクリックすると、ブートローダーのインストール先の設定が行える。USB接続の外付けのHDDにインストールした場合は、初期値ではなく、インストールしたHDDの先頭パーティションに設定しよう

8 インストール作業完了

作業が終了すると、「インストール完了」画面が表示される。「すぐに再起動する」をクリックする。しばらくすると画面に「Prease remove the disc ～」というメッセージが表示。「Enter」キーを押す

パーティション設定について

Windowsがインストールされている領域にUbuntuのインストールを行う場合は、パーティションの操作を行える。パーティション操作は、最悪、使用中のデータを壊す危険性があるので、通常は、インストーラの指示に従うのがお奨めだが、ここでは、その手順を紹介しよう。パーティション操作は、すべてを手動で行う方法とインストールに使用する領域のみを設定する方法がある。

使用領域のみを設定する手順

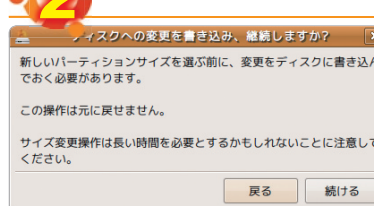
「それぞれ別の～」を選択した場合は、画面下のスライドバーを調整して利用領域を設定できる。設定が終わったら、「進む」をクリックし、「ディスクへの変更～」画面が表示されたら、「続ける」をクリックする

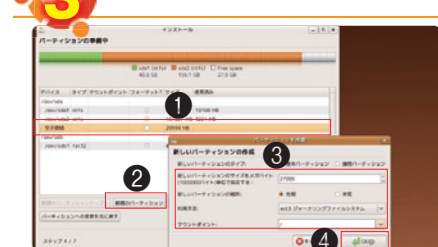
「ガイド-パーティ～」を選択した場合は、「新しい～」のスライドバーで利用領域を設定できる。設定が終わったら、「進む」をクリックし、「ディスクへの変更～」画面が表示されたら、「続ける」をクリックする

手動で設定を行う手順（インストール先の設定で「手動」を選択した場合）

1 空き領域を作成

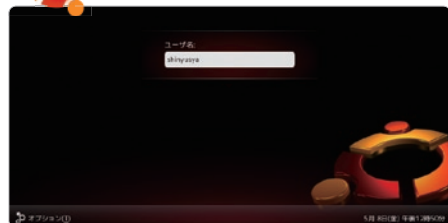
パーティション画面が開くので、❶空き領域の作成するパーティションを選択し、❷「パーティションを編集」をクリックする。❸新しいパーティションサイズを設定し、❹「OK」をクリックする

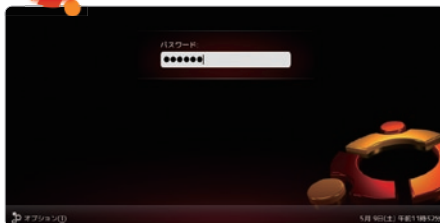
2 パーティション設定の保存

新しく設定したパーティション情報の保存確認画面が開くので、「続ける」をクリックし、情報の保存を行う。また、「戻る」をクリックすると、設定した情報の保存をキャンセルできる。情報の保存を実行しなければ、変更内容は反映されない

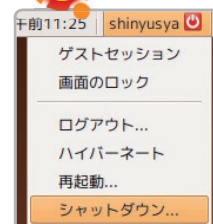
3 新規パーティションの作成

❶空き領域→❷「新規のパーティション」とクリックする。画面が開いたら❸パーティションタイプ及びサイズと場所→利用方法→マウントポイントを設定し、❹「OK」をクリックして、手順2を参考に情報を保存する

Ubuntuの起動と終了

Ubuntuの起動や終了の手順は、Windowsを使用する場合と大きな違いはない。基本的には、パソコンの電源を入れ、しばらく待っているとOSの起動が始まり、ログオンを行なうことで、その機能を使用できるようになる。また、ログオフ（ログアウト）やシャットダウン、ハイバネートなどの終了処理もWindowsを使用する場合と同じような手順で行える。ここでは、Ubuntuの起動や終了などの操作について紹介しよう。

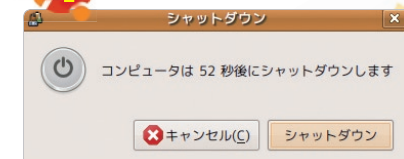
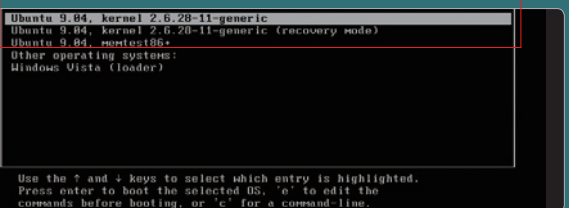
1 パソコンの電源を入れる

パソコンの電源をオンにすると、Ubuntuの起動が始まり、しばらく待っていると、起動画面が表示され、続いて「ログイン」画面が表示される。ログイン画面が表示されたら、「ユーザー名」を入力し「Enter」キーを押す

2 パスワードを入力

ユーザー名を入力して、先に進むと次は、「パスワード」の入力画面が表示される。「パスワード」を入力し、「Enter」キーを押すとログインが完了し、Ubuntuを使用できるようになる

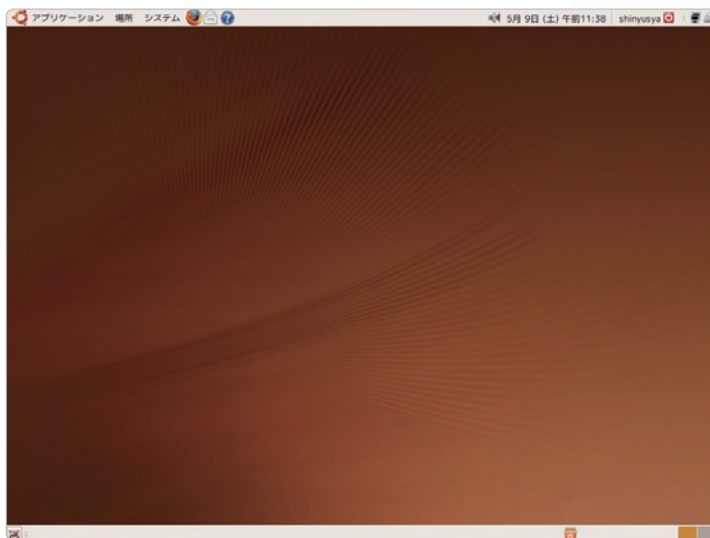
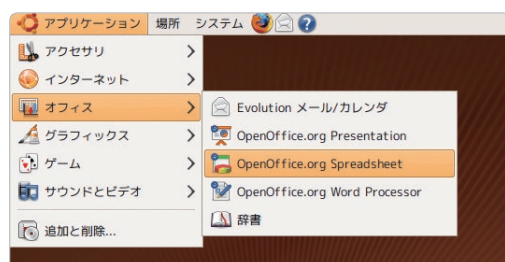
3 Ubuntuの終了

Ubuntuの終了などの操作は、画面右上のユーザー名が表示されているボタンをクリックすると、メニューが表示される。パソコンの電源を切って終了する場合は、「シャットダウン」をクリックする

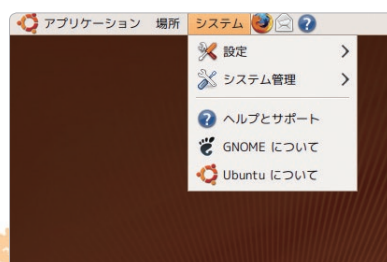
POINT ブートメニューについて

Windowsとのデュアルブート環境で使用している場合など複数のOSで起動可能な場合は、最初に起動メニューが表示される。起動メニューが表示されたら「Ubuntu」を選択して、「Enter」キーを押す。

4 電源を切る

本当にシャットダウンしても良いかを確認する画面が表示される。「シャットダウン」をクリックすると、終了処理が開始され、しばらくするとパソコンの電源がオフになる

デスクトップの構成を知る

UbuntuではGNOMUと呼ばれるデスクトップ環境を採用している。デスクトップ環境とは、WindowsのようなGUIで操作する環境を提供するソフトウェアのこと。外観は、Windowsよりもmac OSに近いが、操作性等はWindowsと比較して、大きな違いはない。画面上部には、「アプリケーション」「場所」「システム」などのメニューが配置され、Webブラウザなど一部の機能のクイック起動アイコンなども配置されている。ここでは、Ubuntuのデスクトップ構成について説明しよう。

場所

ファイルブラウザの起動用メニュー。ここで選択した場所をファイルブラウザで開くことができる。たとえば、ホーム・フォルダをクリックすると、ファイルブラウザで開くことができる

アプリケーション

各種アプリケーションの起動用のメニュー。アクセサリやインターネット、オフィス、グラフィックス、ゲーム、サウンドなどの項目が準備されている。Windowsのプログラムメニューに相当する

システム

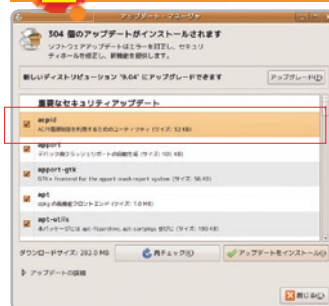
Ubuntuの各種設定等を行うためのメニュー。Windowsでいうところの「コントロールパネル」のようなメニューで、ここから、アプリケーションの追加やスクリーンセーバー、背景などデスクトップ関係の各種設定を行うことができる

8.1.0から9.0.4にアップデートする

Ubuntu 8.1.0から9.0.4へのアップデートは、「アップデート・マネージャ」と呼ばれるツールを使用して行う。ここでは、その手順について説明しよう。アップデート・マネージャは、Windowsに準備されているWindowsUpdateのような機能を提供するツールだ。このツールを使用することで、セキュリティホールが発見された場合やツールが更新された場合にインターネットを利用して迅速なアップデートが行える。

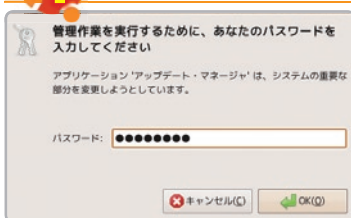
1 アップデート・マネージャを起動

❶「システム」メニューをクリックし、❷「システム管理」→❸「アップデート・マネージャ」と選択するか、アップデートをうながすバルーンをクリックして、アップデート・マネージャを起動する

2 アップデート情報を取得

アップデート・マネージャが起動し、更新するパッケージ情報の取得が自動的に行われる。情報取得が終了すると、「9.0.4」へのアップグレード情報が表示されるので「アップグレード」をクリックする

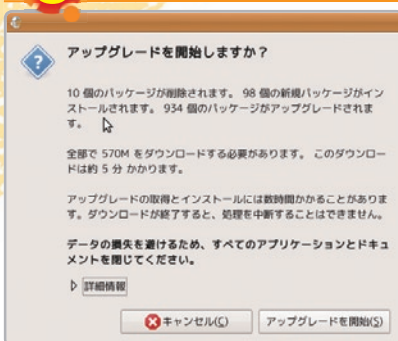
3 リリースノートの確認

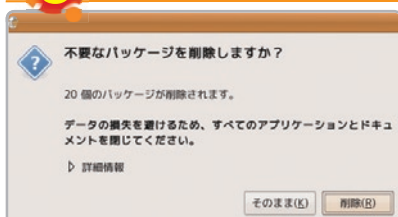
9.0.4のリリースノートが表示される。「アップグレード」をクリックし、8.1.0から9.0.4へのアップグレードを開始する。また、作業を中止したい場合は、「キャンセル」をクリックする

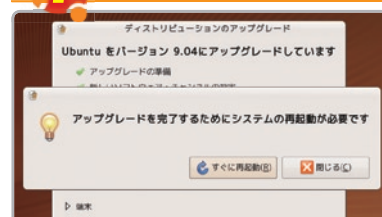
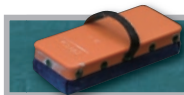
4 パスワードを入力

アップグレード・ツールのダウンロードが開始され、それが終了するとパスワードの入力画面が表示される。ユーザーアカウントのパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックする

POINT 表示画面について

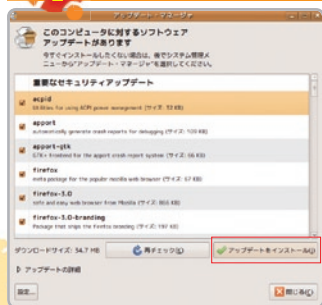
アップグレードの準備が始まり、各種設定等が行われる。公式ではないソースを使用している場合は、それを無効にしたことを知らせる画面が表示される。この画面が表示されたら「閉じる」をクリックする

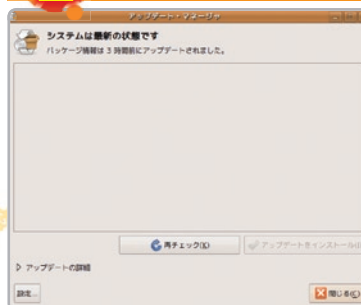
5 アップグレードの開始

各種設定等が終了すると、アップグレードの開始画面が表示される。「アップグレードを開始」をクリックする。その後、「Console-setup」の設定画面が表示されたら、「進む」をクリックする

6 不要なパッケージの削除

アップグレード中は、進捗状況が表示される。また、作業が終了すると、不要なパッケージを削除するかどうかを確認する画面が表示される。「削除」をクリックし、不要なパッケージの削除を実行する

7 システムの再起動を行う

再起動を促す画面が表示される。「すぐに再起動」をクリックし、システムを再起動する。なお、アップグレード後のUbuntuはJapan Teamのリポジトリが無効なので、リポジトリの追加を参考にリポジトリを再登録しよう

パッケージのアップデートを行う

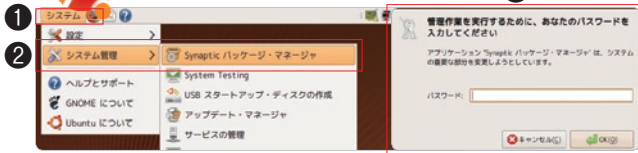
アプリケーション等のパッケージのアップデートは、「アップデート・マネージャ」を用いて行う。アップデート・マネージャの起動は、「システム」メニューをクリックし、メニューから「システム管理」→「アップデート・マネージャ」と選択することで行える。基本的な手順は、Ubuntuを8.1.0から9.0.4にアップグレードするときとほぼ同じなので、それも併せて参考にしてほしい。ここでは、パッケージのアップデート手順を紹介する。

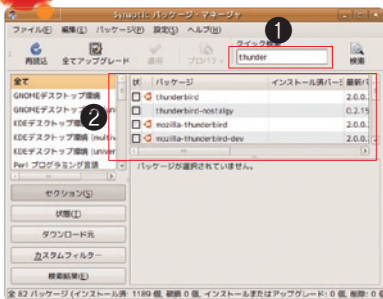
1 アップデートを開始する

アップデート・マネージャを起動して、更新可能なパッケージの一覧が表示されたら、「アップデートをインストール」をクリックする。また、パスワード入力画面が開くので、パスワードを入力して「OK」ボタンをクリックする

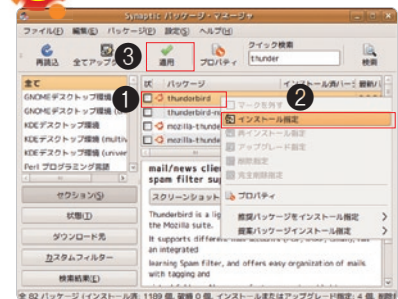
2 アップデートの完了

システムのアップデート中は、進捗状況が表示される。アップデートが終了すると、アップデート・マネージャの画面が更新され、最新のシステムであることが表示されたらアップデートは完了だ。「閉じる」をクリックする

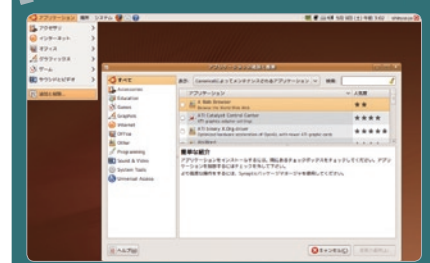
アプリケーションをインストールする

Ubuntuで初期インストールされるアプリケーションは、必要最小限の厳選されたものとなっており、自分好みのアプリケーションが当初からインストールされているとは限らない。ここでは、メールソフト「Mozilla Thunderbird」を例にアプリケーションのインストール手順を紹介しよう。アプリケーション(パッケージ)のインストールは「Synaptic」と呼ばれるツールを使用して行う。

1 「Synaptic」を起動

❶「システム」メニューから❷「システム管理」→「Synapticパッケージ・マネージャ」と選択する。システム設定を変更するため❸パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力し、「OK」をクリックする

2 パッケージの検索

❶インストールしたいアプリケーション(パッケージ)名を「クイック検索」欄に入力すると❷検索結果が表示される。また、「検索」をクリックすると、検索画面が表示され、詳細な検索を行うこともできる

3 パッケージの選択

❶インストールしたいアプリケーション(パッケージ)を一覧からダブルクリックするか右クリックし、メニューから❷「インストール指定」を選択する。❸「適用」ボタンが有効になるので、それをクリックする

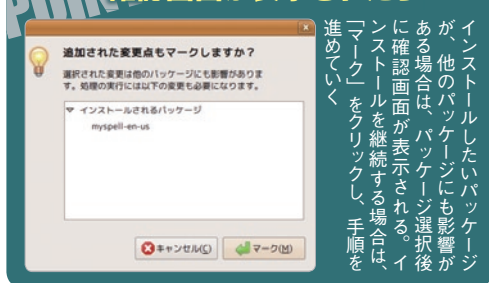
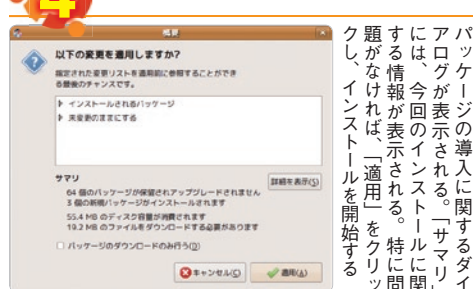
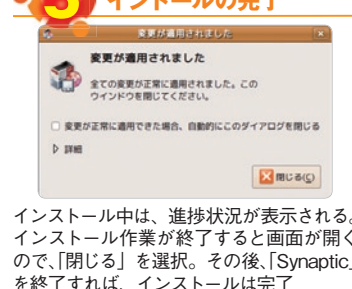
POINT 「アプリケーションの追加と削除」でインストール

アプリケーションのインストールは、「アプリケーション」→「アプリケーションの追加と削除」で起動する「アプリケーションの追加と削除」でも行え、「表示」で検索場所を選択後、起動し直すと検索情報を追加できる

インストールは、「検索」等でインストールしたいアプリケーションを探し、ダブルクリックして選択、「変更の適用」をクリック、確認画面が表示されたら「適用」をクリックすることで行える

POINT 確認画面が表示されたら

インストールしたいパッケージが、他のパッケージにも影響がある場合は、パッケージ選択後に確認画面が表示される。インストールを継続する場合は、「マーク」をクリックし、手順を進めていく

4 パッケージインストールを開始

パッケージの導入に関するダイアログが表示される。「サマリ」には、今回のインストールに関する情報が表示される。特に問題がなければ、「適用」をクリックし、インストールを開始する

5 パッケージイントールの完了

インストール中は、進捗状況が表示される。インストール作業が終了すると画面が開くので、「閉じる」を選択。その後、「Synaptic」を終了すれば、インストールは完了

アプリケーション(パッケージ)を削除する

インストール済みのアプリケーション(パッケージ)の削除は、インストールを行ったときの逆の手順で行える。具体的には、「Synaptic」または「アプリケーションの追加と削除」を起動し、削除したいアプリケーション(パッケージ)を検索等を用いて探し、それを選択して、削除を実行するという手順である。パッケージの選択までの操作は、アプリケーションのインストール手順を参考に作業を行おう。

Synapticの場合

Synapticを起動し、❶「検索」等で削除したいアプリケーションを探し、❷右クリックして、メニューから「完全削除指定」を選択。❸「適用」をクリックする。パッケージ削除に関する画面が表示されるので「適用」をクリックする

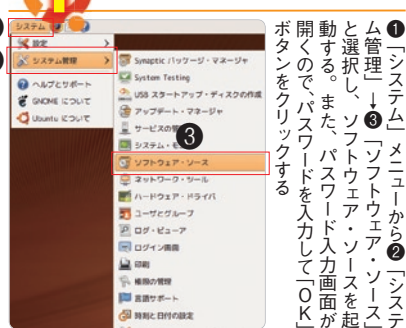
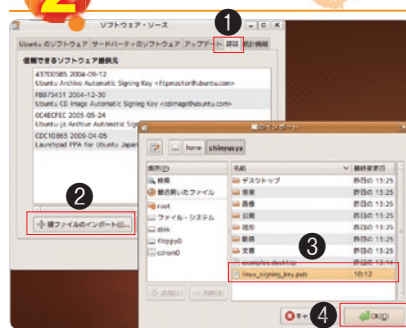
アプリケーションの追加と削除の場合

「アプリケーションの追加と削除」を起動し、❶「検索」等で削除したいアプリケーションを探す。❷削除したいアプリケーションをダブルクリックしてチェックボックスを「オフ」にする。❸「変更の適用」をクリックし、❹アプリケーション(パッケージ)に関する画面が表示されたら「適用」をクリックする

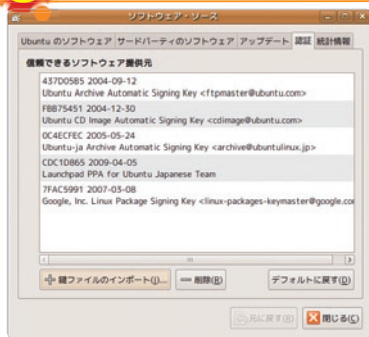
リポジトリを追加する

Ubuntuは、ソフトウェア用リポジトリを追加することで、他のディストリビューション同様にパッケージを簡単に導入できるようになる。リポジトリの追加は、「ソフトウェア・ソース」に必要な情報を登録することで行う。また、リポジトリの追加には、認証鍵やソースとして適用したいリポジトリの情報などをあらかじめ入手しておく必要がある点には注意したい。ここでは、リポジトリの追加の手順を説明しよう。

1 ソフトウェア・ソースを起動

❶「システム」メニューから❷「システム管理」→❸「ソフトウェア・ソース」と選択し、ソフトウェア・ソースを起動する。また、パスワード入力画面が開くので、パスワードを入力して「OK」ボタンをクリックする

2 認証鍵を登録

ソフトウェア・ソースが起動したら、認証鍵を登録する。❶「認証」タブをクリックし、❷「鍵ファイルのインポート」をクリックする。「鍵のインポート」画面が表示されたら、❸登録したい認証鍵のファイルを両面から選択し、❹「OK」ボタンをクリックする

3 登録した認証鍵の確認

選択した認証鍵が、「認証」タブのリスト内に登録されていることを確認したら、「サードパーティのソフトウェア」タブをクリックし、ソースのとして登録したいリポジトリの情報を登録する

4 ソースの入力

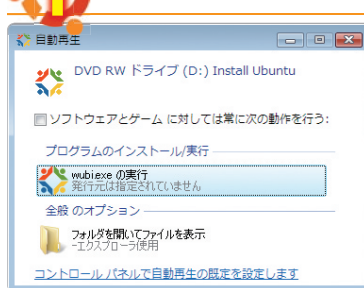
「サードパーティのソフトウェア」タブが開いたら、ソースの入力を行う。❶「追加」をクリックし、❷登録画面が開いたら、ソース情報を入力する。❸「ソースを追加」をクリックする

5 リポジトリの登録完了

「サードパーティのソフトウェア」タブに戻るので、❶「閉じる」をクリックする。❷更新を求める画面が開いたら、「再読込」をクリックして、情報の更新を行うことでリポジトリの登録は完了する

Windows上からインストールする

Ubuntuには、Windows上からインストールできるツール「wubi」が標準搭載されており、これを使用することで簡単にWindowsとUbuntuのデュアルブート環境を構築できる。ここでは、wubiを使用したインストール手順を紹介しよう。ただし、この機能は、本稿執筆現在（5月7日）、Japan TeamのUbuntu 9.0.4（日本語Remix版）では正常に動作していないため、Alternate版と呼ばれる公式版を用いている点に注意して欲しい。

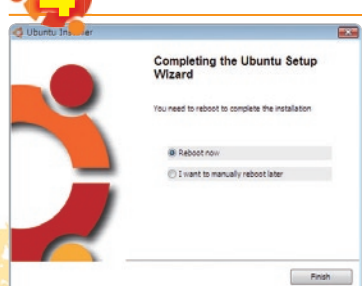
1 wubiを起動

Windowsを起動する。ライブDVDを光学ドライブにセットし、「自動再生」メニューが表示されたら、「wubi.exeの実行」をクリックして、UbuntuをWindows上からインストールするwubiを起動する

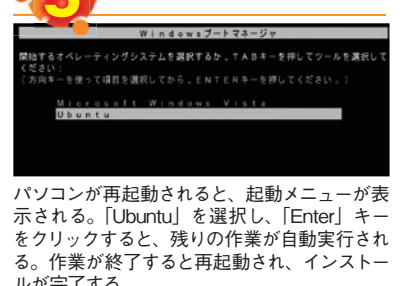
2 インストールを開始

wubiの起動メニューが表示される。「Install inside Windows」をクリックし、インストーラを起動して、Ubuntuのインストール作業を開始する

3 インストール設定を行う

インストール先、使用するディスク容量、パスワードなどの設定を行う。設定が終わったら、「Install」をクリックする

4 パソコンを再起動する

インストール作業が始まる。作業中は、進捗状況が表示され、作業が終了すると、再起動を促す画面が表示される。「Reboot now」を選択し、「Finish」をクリックする

5 インストールの完了

パソコンが再起動されると、起動メニューが表示される。「Ubuntu」を選択し、「Enter」キーをクリックすると、残りの作業が自動実行される。作業が終了すると再起動され、インストールが完了する

100%ムックシリーズ
Linux100% vol.8

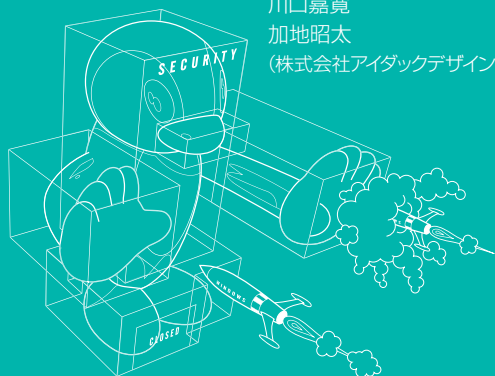
平成21年7月1日発行

［発行人］伊藤淳
［編集人］柴田崇志
［発行所］株式会社晋遊舎

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-12
［営業・広告］03（3518）6861
［印刷所］大日本印刷株式会社

［執筆］ 大林真人　湯一路
vine_user　Akira Ohgaki
u-bon　安達尚喜　清水隆夫
田下光

［編集協力］ 有限会社クロックワークス
有限会社オンサイト
功刀友如　小枝祐基
豊福実和子

［表紙デザイン］ 高橋コウイチ(WF)
［表紙イラスト］ 福田武比呂
［誌面デザイン］ 小澤元太郎
棚橋　裕
松田　満
風間篤士
渡辺亜紀
高野里恵
川口嘉寛
加地昭太
(株式会社アイダックデザイン)

【編集者・ライター大募集】
Linux100%の誌面作成にご協力いただける方を募集しています。ブロガーなど実務経験がない方も大歓迎です。詳細は下記メールアドレスまでお問い合わせください。
その他、誌面に関するお問い合わせについても同アドレスあてにお願いいたします。

宛先は
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 1-12
株式会社晋遊舎　Linux100%編集部まで
メールの場合は linux100@shinyusha.co.jp まで

BACK NUMBER

vol.2 このフリーソフトがスゴイ!!

myPdiscがアツイ!
Ubuntu超基本テクニック&セッティング
Linuxラボ
・Linuxサーバ構築
・Samba活用
・USB Ubuntu
CompizFusion究極マスター　など

vol.3 ワンクリックでデスクトップカスタマイズできる!!

Bootable Linux超活用術
・PuppyLinux　・Knoppix Linux100% Edition
・G DATA AntiVirus
リナックスラボ
・Google携帯エミュレータ
・Webアプリ実行環境「Prism」
ハードウエアセッティングマスター　など

vol.4 Fedora vs Ubuntu 2大最強OS完全解説

Fedora9パーフェクトマニュアル
・基本の使い方
・本体／ソフトウエアインストールなど
Ubuntu最強化総まとめ
このフリーソフトがスゴい!
・インターネット／マルチメディア／ライティングほか
リナックス玄人技

vol.5 1CD Linuxパーフェクト・ガイド

TurboLinuxがスゴイ！
UbuntuからXBMCまで　LiveCD大全集
・用途別：オススメLiveCDはコレ！
・オリジナルUSB Linuxの作り方
UbunTuning!!　～UbuntuをVistaよりも便利にする40の方法～
・システム管理／セキュリティ／ハードウェアほか
UMPCでLinuxを使う　など

vol.6 本誌オリジナルOS「Linux7」

本誌ではじめるOSカスタマイズ・テクニック
Windows→Linux完全移行のススメ!!!
・Linux限定の超絶ツール&アプリを大公開！
・WindowsのデータをLinuxで自由自在に活用！
・Linux上でWindowsを使う！
最新版リリース！ Fedora10はココがスゴイ
Windowsユーザーのためのlinux超基礎講座　など

vol.7 USBリナックスの作り方

Jaris完全ガイド
USB Linux完全攻略
・USB Ubuntu/USB Fedora/USB Knoppixなど
Ubuntuカスタマイズはじめの一歩
Ubuntuデスクトップマスター
マルチメディアサーバの構築に挑戦
初心者向けインストールガイド　など

購入方法
バックナンバーは最寄りの書店にてご注文いただけます。弊社に直接ご注文いただく場合は、ご希望の号と冊数、ご住所・お名前を明記のうえ、本の代金（1冊につき1,380円）と送料（冊数と発送地域により異なりますので、右の電話番号までお問い合わせください）を、現金書留にて右の宛先までお送り下さい。

ご送付先
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-12
株式会社晋遊舎
Linux100% バックナンバー係
TEL 03-3518-6861

ご愛読御礼!!

読者プレゼント

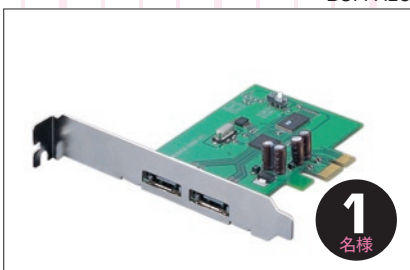
P R E S E N T

1 ネットトップ PC EeeTop 1602

ASUSTeK

パソコンに不慣れでも扱いやすいタッチパネル搭載の本体一体型デスクトップPC

2 eSATA 拡張ボード IFC-PCIE2ES

BUFFALO

PCI接続でパソコンにUSBよりはるかに高速なeSATAポートを追加できるボード

3 フラッシュメモリ eSATA/USB SSD

シリコンパワー

USB端子でも使用可能なeSATAフラッシュメモリ。ポータブルリナックス派にオススメ

4 G DATA インターネットセキュリティ 2009　USB 版

G DATA Software Inc.

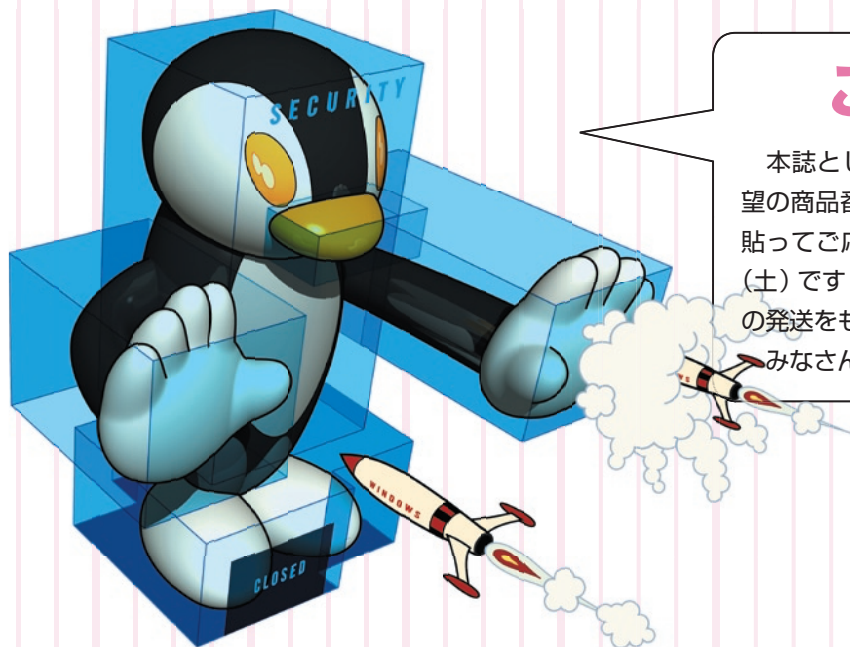
付録DVDにも収録、世界最高の性能を誇るアンチウイルスソフトの製品版

5 Ubuntu T シャツ & ステッカー

本誌特派員がドイツでのイベント会場で入手したレアもののUbuntuグッズ

6 microSD 用 USB メモリ RMUM-8G

BUFFALO

超小型でネットブックなどでの使用にピッタリのUSBメモリ。microSDを差し替えても使えます

ご応募のきまり

本誌とじこみのハガキに、上記賞品のなかからご希望の商品番号と必要事項をご記入のうえ、50円切手を貼ってご応募ください。締め切りは2009年7月25日（土）です（当日消印有効）。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

みなさん、ドシドシご応募ください!!

Linux100%